

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器を利用する

システム設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate

スーパースリムタワー型
(Windows Meインストールモデル)
(Windows 98インストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』6. マニュアルの使用方法』でご確認ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows MeまたはWindows 98のセットアップ

→『はじめにお読みください』

本機を安全に使うための情報

→『安全にお使いいただくために』

Windows Meの基礎知識、基本的な操作方法

→『Microsoft Windows Meクイックスタートガイド』または、Windows Meの「ヘルプとサポート」の中にある「Windows Millennium Editionを使う」ご使用のモデルにより異なります。

Windows 98の基礎知識、基本的な操作方法

→『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』または、Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』ご使用のモデルにより異なります。

このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)、ATコマンド

→『活用ガイド ハードウェア編 スーパースリムタワー型』(電子マニュアル)

本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明

→『活用ガイド ハードウェア編 スーパースリムタワー型』(電子マニュアル)

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ

→『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)

トラブル解決方法

→『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)

Windows Meの再セットアップ方法

→『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows Meインストールモデル)ご使用のモデルにより異なります。

Windows 98の再セットアップ方法

→『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)ご使用のモデルにより異なります。

環境に関する情報

→『環境ガイド スーパースリムタワー型』(電子マニュアル)

選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法

→ Office 2000 Personal、Office 2000 Professional、一太郎10・花子10バック & 1-2-3 2000があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

パソコンに関する相談窓口、受講施設、故障時のサービス網、およびNECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」のご案内

→『NEC PCあんじんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>



はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NXシリーズ Mate

MA80T/T、MA70T/T、MA66H/T、MA63H/T

(Windows Meインストールモデル)

(Windows 98インストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、「PART4 付録」をご覧ください。

2001年 1 月 初版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



メモ

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。



Me

Windows Meに特有の機能や操作について説明しています。



98

Windows 98に特有の機能や操作について説明しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 PC98-NX シリーズ Mate MA80T/T、MA70T/T、MA66H/T、MA63H/T (Windows Meインストールモデル) (Windows 98インストールモデル) * 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、MA80T/T、MA70T/T、MA66H/T、MA63H/Tを指します。
FDレスモデル	フロッピーディスクドライブがない状態でご購入いただいたモデルです。 次の機種で選択できます。 MA80T/T、MA66H/T
CDレスモデル	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブがない状態でご購入いただいたモデルです。 すべての機種で選択できます。
FDCDレスモデル	フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブがない状態でご購入いただいたモデルです。 次の機種で選択できます。 MA80T/T、MA66H/T
アプリケーションレスモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Personalモデル	Office 2000 Personalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Professionalモデル	Office 2000 Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
一太郎10・花子10バック & 1-2-3 2000モデル	一太郎10・花子10バックおよびロータス1-2-3 2000がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
「スタート」ボタン→ 「設定」→ 「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版およびMicrosoft® Windows® 98 Second Edition Operating System日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/ Shogakukan Bookshelf® Basic)
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional(Microsoft Word 2000、 Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft PowerPoint® 2000、Microsoft Access 2000、Microsoft Pub- lisher 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000
一太郎10・花子10パック	一太郎10・花子10パック/R.2(一太郎10/R.2、花子10/R.2、 三四郎9/R.2、ATOK13/R.2)
1-2-3 2000	ロータス1-2-3 2000
PGP	PGP Personal Privacy

このマニュアルの記載順序

1. CPUの性能が高い順に記載しています。
2. OSは、次の順序で記載しています。
Windows Me、Windows 98

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。
- ・本機のイラストは、特にことわりのない場合、フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブが搭載されたモデルのものを使用しています。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、エネルギースター対応のモデルが国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。

対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく、端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。

認証機器名：SF-19Q-ST

認証番号

電話回線：A00-0402JP

導入にあたっては、「LTDF. INF」または「LTDFNT. INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に当たって正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、またはCD-R/RWドライブが搭載されています。

■ 高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows MeまたはWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (7) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (8) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
- (9) 本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2000年12月現在のもので、

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

本製品の輸出(個人による携帯を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、NetMeeting、Outlook、PowerPoint、BookshelfおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標または商標です。

「一太郎10・花子10バック/R.2」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10バック/R.2」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

VirusScanおよびPGPは、米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

pcAnywhereはSymantec Corporationの米国における登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

Intel、PentiumおよびCeleronは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における商標または登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART4までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。

索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容( チェック!!)、用語( 用語)、メモ( メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 周辺機器を利用する

接続できる周辺機器の概要とメモリ、PCカードなどの周辺機器を増設する方法について説明しています。

PART3 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

PART4 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

はじめに	3
このマニュアルの表記について	4
ご注意	8
このマニュアルの構成・読み方	10
目次(このページです)	11
索引	15

本体の構成各部 21

各部の名称	22
本体正面	22
本体背面	25
電源(Windows Meの場合)	27
電源の状態と操作方法	27
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	29
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)	31
休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)	34
電源の自動操作	37
電源(Windows 98の場合)	39
電源の状態と操作方法	39
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	41
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)	42
電源の自動操作	46
電源の管理について(APMモード/ACPIモード)	48
キーボード	54
添付されるキーボードの種類	54
使用上の注意	55
PS/2 109キーボード、USB109キーボード	56
テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード	58
USB小型キーボード	60
USB98配列キーボード	62
日本語入力	64
USB接続のキーボードの使用上の注意	66
マウス	67
マウスについて	67

ディスプレイ	68
使用上の注意	68
表示能力	69
ディスプレイの省電力機能	73
別売のディスプレイを使う	73
ハードディスクドライブ	74
使用上の注意	74
ドライブ番号の割り当て	76
スキャンディスクの操作手順	77
フロッピーディスクドライブ	80
使用上の注意	80
使用できるフロッピーディスク	80
フロッピーディスクの内容の保護	82
CD-ROM ドライブ	83
再生できるCDの種類	83
CD-ROM ドライブ使用上の注意	84
非常時のディスクの取り出し	84
CD-R/RW ドライブ	85
再生できるCDの種類	85
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット	85
CD-R/RW ドライブ使用上の注意	86
非常時のディスクの取り出し	86
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	87
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続	87
LANの設定(Windows Meの場合)	88
LANの設定(Windows 98の場合)	89
ネットワークパスワードの変更(Windows Meの場合)	90
ネットワークパスワードの変更(Windows 98の場合)	92
リモートパワーオン機能の設定(Windows Meの場合)	94
リモートパワーオン機能の設定(Windows 98の場合)	96
FAXモデムボード	99
FAXモデムボードについて	99
FAXモデムボードを使用するときの注意	99

セキュリティ/マネジメント機能	102
セキュリティ/マネジメント機能の概要	102
セキュリティ機能	102
マネジメント機能	105
周辺機器を利用する	109
接続できる周辺機器	110
接続にともなう注意点	111
接続前の確認	111
プラグ&プレイ セットアップについて	111
デバイスドライバの追加について	112
接続時に注意すること	112
接続がうまくできない場合	113
リソースの競合が起きたら	114
本体カバー類の取り外し	117
カバーの取り外し	117
カバーの取り付け	120
ケーブルストッパの取り付け/取り外し	122
取り付け前の確認	122
ケーブルとケーブルストッパの取り付け	122
ケーブルとケーブルストッパの取り外し	123
増設RAMサブボード(メモリ)の取り外し/取り付け	125
取り付け前の確認	125
増設RAMサブボードの取り外し	126
増設RAMサブボードの取り付け	127
メモリ容量の確認方法	128
FAXモデムボードの取り外し/取り付け	130
FAXモデムボードの取り外し	130
FAXモデムボードの取り付け	132
PCカードを利用する	134
PCカードスロットについて	134
使用上の注意	135
PCカードの取り付け	137

PART

3

PCカードの取り外し	138
ファイルベイ用内蔵機器の取り付け/取り外し	142
取り付け/取り外し前の確認	142
専用3.5インチベイ	143
専用5インチベイ	148
ストラップスイッチの設定	153
パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合).....	153

システム設定 159

BIOSセットアップメニューについて	160
BIOSセットアップメニューの起動と初期画面	160
BIOSセットアップメニューの終了	161
工場出荷時の設定値に戻す	161
Mainの設定	162
Mainの設定	162
Advancedの設定	165
Advancedの設定	165
Securityの設定	169
Securityの設定	169
パスワードの解除	172
Powerの設定	173
Powerの設定(Windows MeおよびWindows 98のACPIモードの場合).....	173
Powerの設定(Windows 98のAPMモードの場合)	174
Bootの設定	177
起動順位の設定	177

PART

4

付 録 179

機能一覧	180
型番の読み方	180
仕様一覧	180
割り込みレベル・DMAチャネル	187
本機のお手入れ	189
マウスのクリーニング	190

索引

ページ太字：説明や作業のあるページを指します。

ページ細字：図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX	87	CD レスモデル	5
109キーボード	56	Diskette Access	170
10BASE-T	87	DMAチャンネル	116, 187
121ware	106, 111, 113	DMI Event Logging	167
1Gバイト	75	DPMS	73
1Mバイト	75	DV15A3	70, 72
3.5インチフロッピーディスクドライブ	23	DV17D2	70, 72
98配列キーボード	62	Extended Memory	164
ACPIモード	48	F14T41W	71
AC電源コネクタ	25	F14T62	69
APMモード	48	F15R42W	71
ATOK	64	F15R52	69
ATコマンド	99, 186	F15T2W	71
Auto Suspend Timeout ...	174, 175	F15T52	69
BIOS	153	F18S1W	69, 71
BIOS Revision	164	FAX機能	186
BIOSセットアップメニュー	160	FAX通信機能	99
Boot-Time Diagnostic Screen	164	FAXモデムによる電源の自動操作	48
CD-R/RWアクセスランプ	24	FAXモデムボード	99
CD-R/RWドライブ	23, 85	FAXモデムボード機能仕様	186
CD-ROM	83	FD CD レスモデル	5
CD-ROMアクセスランプ	24	FD レスモデル	5
CD-ROMドライブ	23, 83	FE90	72
		FE91	70
		Hard Disk Timeout	174, 175

I/O Device Configuration	166	PK-UP004E	66
I/O ロック	103, 171	PK-UP008	66
IEC825	7	Plug & Play O/S	165
ITU-T	99	Power Savings	174
JEIDA	134	Primary Master	163
K56flex	99	Primary Slave	163
Keyboard Features	163	PS/2 互換マウスポート	115
LAN の設定	88, 89	PS/2 接続キーボードコネクタ	26
LAN ボード機能仕様	185	PS/2 接続マウスコネクタ	26
LAN 用モジュラーコネクタ	25	QuickBoot Mode	166
Local Bus IDE adapter	166	README	114
MS-IME	64	Removable Devices	177
Network Boot Setting	171	Reset Configuration Data	165
N キーロールオーバー	55	Restore On AC/Power Loss ...	168
Office 2000	64	Resume On Modem Ring	174, 176
On OME	168	Resume On Time	174, 176
Password On Boot	170	Secondary Master	163
PC-11-1988	7	Secondary Slave	163
PC-9800	81	System backup reminder	171
PC-MA-C01	77	System Memory	164
PC-MA-C02	77	System Switch	174, 176
PCMCIA	134	USB ケーブルフック	25
PC カード	134	USB コネクタ	25
PC カードイジェクトボタン	24	VCCI	7
PC カードスロット	24	VESA	73
PGP	103	Windows キー	56, 59, 61
PK-MC202	66		
PK-SM003	102		
PK-SM005	102		
PK-UP001	66		

ア行

赤い「×」	114
アナログRGB コネクタ	26

ウイルス	104
ウィンドウアクセラレータ	68
液晶ディスプレイ	68
エネルギースター	7, 38, 73
エンドユーザ管理	105

力行

解除	153
解像度	68
書き込み禁止	82
型番の読み方	180
カバー	117
カバーロック	119
キーボード	54
キーロールオーバー	55
黄色い「！」	114
起動順位	177
休止状態	27
筐体ロック	26, 104
クライアントモニタリング	106
ケーブルストッパ	122
工場出荷時の設定値	161
高調波電流規制	7
誤挿入防止機構	127
コンプリートオフ	73

サ行

サスペンド	73
資源管理	107
ジャンパ	154

周辺機器	111
重要な情報	114
順序	125
状態監視	107
省電力機能	73
スーパバイザパスワード	153
スキップセクタ	75
スキャンディスク	77
スタビライザ	25
スタンバイ	73
スタンバイ状態	27
ストラップスイッチ	153
スマートカード	102
スロットの位置	126
設定	153
接続可否	111
接続前の確認	111
増設RAM サブボード	125
増設RAM サブボードの取り付け	127
増設RAM サブボードの取り外し	126
ソフトウェアパワーOFF機能 ...	105

タ行

タイマ	37, 46
通風孔	26
データ通信機能	99
ディスクアクセスランプ	23
ディスクイジェクトボタン	23
ディストレイイジェクトボタン	24
ディスプレイ	68

適用電話回線	99
デバイスドライバ	112
デバイスマネージャ	111
テンキー付きキーボード	58
電源	27
電源スイッチ	22
電源ランプ	22
電波障害	7
電話回線用モジュラーコネクタ ...	25
ドライブ番号	76
トラブル	114
取り付け順序	125

ナ行

内蔵機器	117
日本語入力	64
認証番号	7
ネットワークブート機能	106

ハ行

ハードディスクアクセスランプ ...	23
ハードディスクドライブ	74
ハイパワーデバイス	66
パケット	105
パスワード	90, 92
パスワードの解除	153
バックアップ	74
ハブ	87
表示色	68
フォーマット	81

復帰	28
プラグ&プレイ	111
不良セクタ	75
フロッピーディスクドライブ	80
補足説明	114
本機	5
本機のお手入れ	189
本体	5

マ行

マウス	67
マネジメント機能	102
マルチポートリピータ	87
ミニDIN6ピン	26
メモリ	125
メモリ容量の確認	128
メンテナンスウィザード	78, 79

ヤ行

ユーザパスワード	153
輸出	8

ラ行

ライトプロテクト	82
ライトプロテクトノッチ	82
リソース	111
リソースの競合	114
リフレッシュレート	68
リモートコントロール	106
リモートパワーオン機能 ...	47, 105

リンクケーブルの接続 87

レーザ安全基準 7

ローパワーデバイス 66

漏洩電流自主規制 7

ワ行

割り込みレベル 116, 187

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

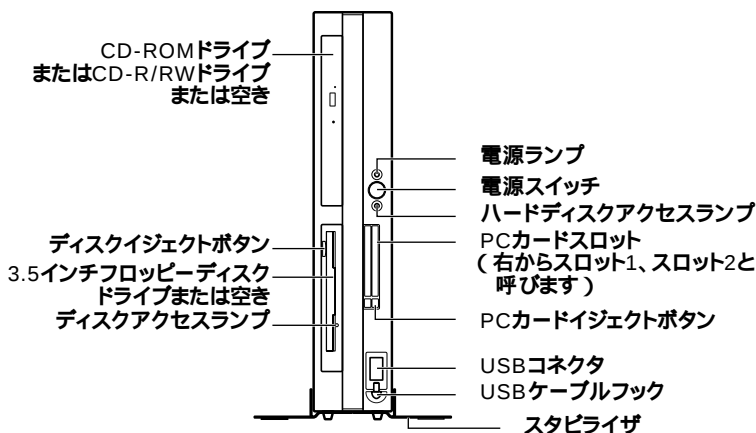
この章の内容

各部の名称	22
電源(Windows Meの場合).....	27
電源(Windows 98の場合).....	39
キーボード	54
マウス	67
ディスプレイ	68
ハードディスクドライブ	74
フロッピーディスクドライブ	80
CD-ROMドライブ	83
CD-R/RWドライブ	85
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	87
FAXモデムボード	99
セキュリティ/マネジメント機能	102

各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面



電源スイッチ(⏻)

Me 本体の電源の状態を変更(入れる / 切る、スタンバイ / スタンバイからの復帰、休止状態 / 休止状態からの復帰)するスイッチです。

→「電源(Windows Meの場合)」(P.27)

98 本体の電源の状態を変更(入れる / 切る、スタンバイ / スタンバイからの復帰)するスイッチです。→「電源(Windows 98の場合)」(P.39)

電源ランプ(💡)

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。→「電源(Windows Meの場合)」(P.27)「電源(Windows 98の場合)」(P.39)

ハードディスクアクセスランプ

IDEデバイス(プライマリマスタ、セカンダリマスタ)が読み書きしているときに点灯します。工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ(セカンダリマスタ)があります。なお、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの種類によっては、点灯しないことがあります。→「ハードディスクドライブ」(P.74)、「CD-ROMドライブ」(P.83)、「CD-R/RWドライブ」(P.85)



チェック!!

ハードディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

3.5インチフロッピーディスクドライブまたは空き

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。FDレスモデルおよびFD/CDレスモデルの場合は搭載されていません。

→「フロッピーディスクドライブ」(P.80)

ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出します。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!!

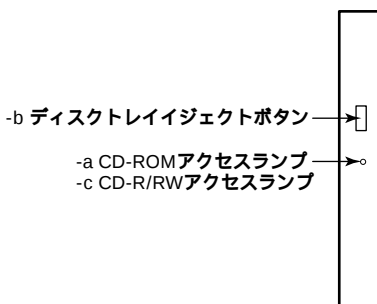
ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブまたは空き

CD-ROMのデータを読み出す装置です。CDレスモデルおよびFD/CDレスモデルの場合は搭載されていません。→「CD-ROMドライブ」(P.83) さらにCD-R/RWドライブでは、CD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。CDレスモデルおよびFD/CDレスモデルの場合は、搭載されていません。→「CD-R/RWドライブ」(P.85)

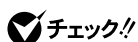
CD-ROMドライブおよびCD-R/RWドライブ拡大図

機種によってランプやボタンの位置が異なる場合があります。



-a CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

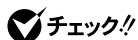
CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

-b ディスクトレイジェクトボタン

トレイを出すときに使います。

-c CD-R/RWアクセスランプ

CD-R/RWドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

CD-R/RWアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。CD-RやCD-RWの内容がこわれたり、故障の原因となります。

PCカードスロット

PCカードを接続します。→「PART2 周辺機器を利用する」PCカードを利用する (P.134)

PCカードイジェクトボタン

PCカードを取り出すときに使います。

USBコネクタ(USB)

USB機器を接続します。→「キーボード (P.54)

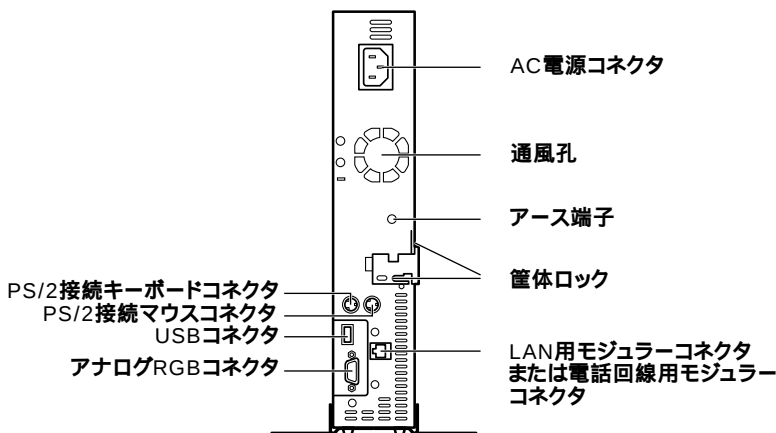
スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

USBケーブルフック

USB機器のケーブルが抜けるのを防止します。

本体背面



AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。添付の電源ケーブルを接続します。

USBコネクタ(🖱️)

USB機器を接続します。添付のUSB接続のキーボードなどを接続します。
→「キーボード」(P.54)

LAN用モジュラーコネクタ(📶)または電話回線用モジュラーコネクタ(📞)

LANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。
LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.87)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、データ通信やFAXの送受信などを行うことができます。→「FAXモデムボード」(P.99)

FAXモデムボードは取り外すことができます。→「PART2 周辺機器を利用する」FAXモデムボードの取り外し/取り付け(P.130)

アナログRGBコネクタ()

アナログインタフェースのディスプレイを接続します。

→「ディスプレイ」(P.68)

PS/2接続キーボードコネクタ()

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のキーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。→「キーボード」(P.54)

PS/2接続マウスコネクタ()

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のマウス(ミニDIN6ピン)を接続します。→「マウス」(P.67)

筐体ロック()

市販のロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

→「セキュリティ/マネジメント機能」(P.102)

通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

アース端子()

アース線を接続します。

電源(Windows Meの場合)

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」「休止状態」の4つの状態があります。



- 電源が切れている状態

Windows Meを終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

- 電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

- スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

- 休止状態

メモリの情報をすべてハードディスクドライブに保存した後で、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、電源を切ったときと同じ状態で復元されます。本体の電源を切るため、「休止状態からの復帰」は「スタンバイからの復帰」より遅くなります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯
休止状態	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

● 電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

● 電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows Meの終了メニューから「終了」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

● スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows Meの終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する

● スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

● 休止状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows Meの終了メニューから「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システム休止状態」で設定する

● 休止状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。

✓**チェック!** 電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

1 フロッピーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する

2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる

3 本体の電源スイッチを押す

✓**チェック!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBを2枚増設した場合、約6秒かかります。

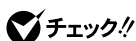
電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

✓**チェック!** 電源投入後、Windows Meの起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

■「スタート」ボタンによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する



チェック!

FAXモデムボードを搭載したモデルで通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

2 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

3 「終了」を選択して「OK」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

■電源スイッチによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 電源スイッチを押す 自動的に電源が切れます。

⚠ 注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

3 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る



- ・「電源の管理」では次の設定が行えます。
 - ・ 電源スイッチの変更(スタンバイ、休止状態、電源オフ)
 - ・ 電源の自動操作(システムスタンバイ、システム休止状態)
- ・ ソフトウェアのエラーなどで、Windows Meの操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A」をご覧ください。



「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰を行うには、「電源の管理」の設定を変更する必要があります。



「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ



チェック!! スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。



チェック!! リモートパワーオン機能を使用するため、「デバイスマネージャ」のネットワークアダプタのプロパティで、「電源の管理」タブにおいて「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」をチェックした場合、ネットワーク状態を最新の情報に更新するため不定期にスタンバイ状態が解除される場合があります。

■「スタート」ボタンによる方法

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■ 電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

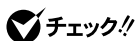
スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の方法があります。

■ 入力デバイスによる方法

1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。



チェック!

一度操作しても画面が元に戻らない場合は、もう一度マウスを動かすか、キーボードのキーを押してください。

■ 電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

- スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき
スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。
 - ・ 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
 - ・ 停電が起きたとき
 - ・ 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき
- スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき
スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。
 - ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中のとき
- ・ Windows Meの起動処理中、終了処理中のとき
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき
- その他の注意
 - ・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
 - ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。

- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ SCSI PCカードを使用している場合、接続されている機器によっては正しくスタンバイ状態から復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態にしないでください。
- ・ スタンバイ状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法
次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
 - ・ アプリケーションが動作しない
 - ・ スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
 - ・ マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を長時間中断する場合は、休止状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによって休止状態/休止状態からの復帰を行うには、「電源の管理」の設定を変更する必要があります。

参照 ▶ 「電源の管理」の設定の変更 → Windows Meのヘルプ

休止状態にする

電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の方法があります。

**チェック!!**

リモートパワーオン機能を使用するため、「デバイスマネージャ」のネットワークアダプタのプロパティで、「電源の管理」タブにおいて「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」をチェックした場合、ネットワーク状態を最新の情報に更新するため不定期に休止状態が解除される場合があります。

■「スタート」ボタンによる方法

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

2 「休止状態」を選択して「OK」ボタンをクリック
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

■電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

⚠注意

電源スイッチを押して休止状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

1 電源スイッチを押す

Windows Meが起動し、前回休止状態機能を使用して電源を切ったときと同じ状態に復元されます。

休止状態機能を使用するときの注意

休止状態機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと休止状態にするときのデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

- 休止状態からの復帰が保証されないとき

休止状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または休止状態からの復帰中に次のようなことを行うと、休止状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき
- ・ PCカードの抜き差しをするなど、本機の環境や構成を変更したとき
- ・ 周辺機器の構成を変更(取り付け/取り外し)したとき

また、次のような状態で休止状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- ・ Windows Meの起動処理中、終了処理中のとき
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

- その他の注意

- ・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときに休止状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ 休止状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- ・ SCSI PCカードを使用している場合、接続されている機器によって正しく休止状態から復帰できない場合があります。このような場合は、休止状態にしないでください。

- 休止状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、休止状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない

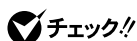
- ・ 休止状態にする前の内容に復帰できない
- ・ 電源スイッチを押しても休止状態から復帰できない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、休止状態機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップメニューの内容が工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ(「電源の管理」\Timer-NX)、LAN、回線からのアクセス(リモートパワーオン機能、リング機能)によって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック!

タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

「電源の管理」

「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。また、「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システム休止状態」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的に休止状態にすることができます。工場出荷時の「電源オプション」は次のように設定されています。

「電源の管理」の設定 本体	モニタの 電源を切る	ハードディスク の電源を切る	システム スタンバイ	システム 休止状態
エネルギースター対応	約15分	約30分	なし	約20分
エネルギースター未対応	約15分	約30分	なし	なし

参照

「電源の管理」の設定の変更→Windows Meのヘルプ



エネルギースター対応のモデルは、省エネルギーのため工場出荷時に休止状態になるように設定してあります。本機が該当するかは、型番を調べればわかりますので、『はじめにお読みください スーパースリムタワー型』をご覧ください。

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を切る、またはスタンバイ状態/休止状態から復帰することができます。



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加
「Timer-NX」[Timer-NXのヘルプ](#)

リモートパワーオン機能(LANによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。



- ・「セキュリティ/マネジメント機能」マネジメント機能「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.105)
- ・「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」リモートパワーオン機能の設定(Windows Meの場合)(P.94)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態または休止状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。



『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加
「Timer-NX」[Timer-NXのヘルプ](#)

電源(Windows 98の場合)

ここでは電源の入れ方と切り方や、省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」の3つの状態があります。



- 電源が切れている状態

Windows 98を終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

- 電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

- スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブのモータを停止するなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰させるときは素早く元の状態に戻すことができます。

電源の状態により、ランプとディスプレイの表示は、次のようになります。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

● 電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

● 電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 98の終了メニューから「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

● スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows 98の終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する

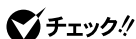
● スタンバイ状態から復帰する

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。



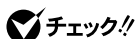
チェック!!

電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

1 フロッピーディスク ドライブに何もセットされていないことを確認する

2 ディスプレイなど周辺機器の電源を入れる

3 本体の電源スイッチを押す

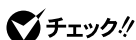


チェック!!

メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBを2枚増設した場合、約6秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

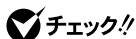


チェック!!

電源投入後、Windows 98やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。また、マウスポインタが砂時計表示されていないこと、およびディスクアクセスランプなどが点灯していないことを確認してから電源を切ってください。

■「スタート」ボタンによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する



チェック!!

通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

2 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

3 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

■ 電源スイッチによる方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 電源スイッチを押す

「Windowsを終了します。よろしいですか？OK/キャンセル」と表示されます。

⚠ 注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

3 「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る



ソフトウェアのエラーなどで、Windows 98の操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A』をご覧ください。

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰を行うには、システムスイッチを変更する必要があります。

参照 システムスイッチの変更→「PART3 システム設定」Powerの設定」
(P.173)

- ✓チェック!!** スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

■「スタート」ボタンによる方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
- 2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

■入力デバイスによる方法

- ✓チェック!!** PS/2キーボード/マウスのモデルをACPIモードに変更した場合、PS/2キーボードによるスタンバイからの復帰はできません。ただし、PS/2マウスからは復帰できます。

- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

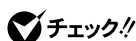
■ 電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。



チェック!

LANボードを搭載したモデルの場合、接続先がないと起動やスタンバイからの復帰が20秒ほど長くなることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A「電源を入れたが…」を参照して、設定の変更を行ってください。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。この注意を守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

- スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき
スタンバイ状態のときに次のことが起きますと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。
 - ・ 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
 - ・ 停電が起きたとき
 - ・ 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき
このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした…」と表示されますので、画面の指示に従ってください。
- スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき
スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行くと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。
 - ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき
 - ・ PCカードやLANケーブルの抜き差しをするなど、本機の環境や構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中とき
- ・ プリンタへ出力中とき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中とき
- ・ CD-ROMを読み取り中とき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中とき
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中とき
- ・ Windows 98の起動処理中、終了処理中とき
- ・ 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。したがって、ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認の上、スタンバイ機能を使用してください。

● その他の注意

- ・ 通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ ATAカードを挿入しているときにスタンバイ状態にすると、カードを挿入していないときより時間がかかります。
- ・ ACPIモードにおいて、本体PCカードスロットで、SCSIインタフェースのCardBus対応PCカードをご使用の場合、正常にスタンバイ状態から復帰できない場合があります。これらのPCカードをご使用の場合には、スタンバイ状態にする前にPCカードを取り外してから、スタンバイ/スタンバイから復帰を行ってください。

- ・ ネットワークの設定がTCP/IPでDHCPサーバーを使用する設定になっていると、起動時やスタンバイ状態から復帰の際に、通常より20秒ほど時間がかかることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A』の「電源を入れたが…」をご覧ください。
- スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法
次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
 - ・ アプリケーションが動作しない
 - ・ スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
 - ・ マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上、押し続けてください。スリープランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ(「電源の管理」Timer-NX)やLAN、回線からのアクセス(リモートパワーオン機能、リング機能)によって、自動的に電源の操作を行うことができます。

「電源の管理」

「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。工場出荷時は約15分でディスプレイの電源を、約30分でハードディスクドライブの電源を切るように設定されています。

**チェック!!**

ACPIモードで使用時に、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の「電源の管理」をダブルクリックし、「システムスタンバイ」の設定時間を、「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」が「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。よって、次のような設定がなされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは、「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→15分後

「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、次のように設定してください。

例1:

「システムスタンバイ」→15分後

「モニタの電源を切る」→5分後

例2:

「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→なし

参照

「電源の管理について(APMモード/ACPIモード)」(P.48) Windows 98のヘルプ

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる/切る、またはスタンバイ状態から復帰することができます。「Timer-NX」で指定した時刻に電源を入れることができるのは、APMモードで使用しているときだけです。ACPIモードでは使用できません。

参照

- ・「電源の管理について(APMモード/ACPIモード)」(P.48)
- ・『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加
「Timer-NX」Timer-NXのヘルプ

リモートパワーオン機能(LANによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

参照

- ・「セキュリティ/マネジメント機能」マネジメント機能「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.105)
- ・「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」リモートパワーオン機能の設定(Windows 98の場合)(P.96)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。Timer-NXを使ってスタンバイ状態から復帰することができるのは、FAXモデムボードが内蔵されているモデルを利用した場合です。

 『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』『Timer-NX』『Timer-NXのヘルプ』

電源の管理について(APMモード/ACPIモード)

本機では、電力を節約する機能を使うための電源管理のモードとして、APMモードとACPIモードの2つのモードを使うことができます。工場出荷時の状態では、APMモードに設定されています。

用語 APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとはパソコンや周辺機器の電源の管理を、BIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

用語 ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで行うためのしくみで、Windows 98で実現できるようになりました。

モードの確認

どちらのモードで動作しているかば「デバイスマネージャ」で確認できます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリック

4 「システムデバイス」をクリック

以下の情報が表示されます。

- ・ APMモード のとき: アドバンストパワーマネジメント サポート
- ・ ACPIモード のとき: ACPI xxxxx

APMモードからACPIモードへの切り替え方法

APMモードから ACPIモードへ切り替える際には、Windows 98に関して十分知識がある方が作業するようにしてください。



チェック!!

- ・ ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に割り込みを1つ使用します。ACPIモードへの切り替えは、使用していない割り込み(IRQ)を確認してから行ってください。
- ・ モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップの直後に行ってください。
- ・ APMモード(工場出荷時)からACPIモードに切り替えた後、ACPIモードからAPMモードに戻すには再セットアップが必要です。

参照

再セットアップ→『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック

2 エクスプローラから「C: ¥MODECHG¥ACPI_APM.VBS」をダブルクリック

3 「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

4 「ACPIを有効にする準備ができました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

5 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

6 「ハードウェアの追加」をダブルクリック

7 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面で「次へ」ボタンをクリック

8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

9 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

10 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検索されます。」と表示されたら「はい(通常はこちらを選んでください)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

11 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
ハードウェアの検出が始まります。

12 「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

-  **チェック!!** ・ 「次のプラグアンドプレイデバイスがインストールされました。」と表示された場合、「ほかのデバイスをインストールする」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- ・ Windows 98のCD-ROMをセットするように要求するメッセージが表示された場合は、本体ハードディスクにあるC:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABSフォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
 - ・ APMモードからACPIモード切り替えを実行すると、ディスプレイの設定が640×480の16色モードになる場合があります。切り替え完了後、ディスプレイのプロパティで元の設定に再設定してください。
 - ・ 「コピーするファイルより新しいファイルが存在します。」と表示されたら、「はい」を選択してください。

13 ハードウェアウィザード終了後、「コンピュータを再起動してください」と表示されるので「はい」ボタンをクリック

-  **チェック!!** 途中で再起動を促す画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

14 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック

- 15 エクスプローラから「C:\¥MODECHG¥APMOFF2.REG」をダブルクリック
- 16 「情報をレジストリに追加しますか？」と表示されるので「はい」ボタンをクリック
- 17 「レジストリに正しく入力されました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

APMモードからACPIモードへの切り替え後の注意

3モードFDドライバの再セットアップの設定があります。なお、ACPIモードに変更後にリモートパワーオン機能を使用する場合、「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定(Windows 98の場合)〔P.96〕をご覧ください。

■ 3モードFDドライバの再セットアップ

APMモードからACPIモードへ切り替え後、1.2MBフロッピーディスクが使用できなくなった場合は、以下の手順で3モードFDドライバを組み込み直してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 リストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリック
- 5 表示されたドライバ名の中に「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」が存在するか確認する



チェック!

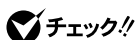
ここで「フロッピーディスクコントローラ」の下に「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」が存在しなかった場合には、6～9の手順は必要ありません。手順10へ進んでください。

- 6 「NEC 3-mode Floppy(LPC47B27x)」をクリックして反転表示させて「削除」ボタンをクリック

7 「デバイス削除の確認」が表示されたら、「OK」ボタンをクリック

8 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリック

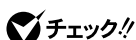
9 Windows 98を再起動する



再起動後にディスプレイの解像度や色数が変更されることがあります。その場合は、手順19が終了した後に、ディスプレイの表示の設定を変更して元の解像度、色数に戻してください。

10 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

11 「ハードウェアの追加」をダブルクリック



新しいハードウェアデバイスをインストールする前に、実行中のアプリケーションがある場合にはすべて終了させてください。

12 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

13 「システムにあるプラグ アンド プレイ機器を検索します。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
検索が開始されます。

14 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

15 「プラグ アンド プレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検出されます。」と表示されたら、「いいえ(一覧から選択する)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

16 「ハードウェアの種類」のリストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

17 製造元とモデルを選択する画面が表示されるので、製造元からはNECをモデル一覧からは「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

18 「完了」ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。

19 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上で3モードFDドライバの組み込みは完了です。

ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時にパワーマネージメント機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が正常に表示されない場合があります。その場合には、【Alt】+【Tab】を押してタスクを切り替えることにより正常に動作するようになります。

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。

参照 キーボード→Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

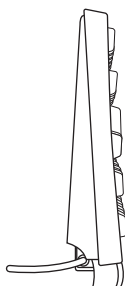
本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キー配列、収納方法などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称			インタフェース	キー配列	収納方法
PS/2 接続 のキーボード	PS/2 109キーボード		PS/2	109配列	横置き
	テンキー付きPS/2 小型キーボード	縦置き収納型		109準拠	縦置き
		横置き収納型			横置き
USB接続の キーボード	USB109キーボード		USB	109配列	横置き
	USB小型キーボード			109準拠	縦置き
	USB98配列キーボード			98配列	横置き
	テンキー付きUSB小型キーボード			109準拠	縦置き

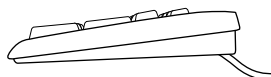
収納方法

本機に添付されるキーボードには、キーボードを使わないときの収納方法として、縦置き収納型と横置き収納型の2つがあります。

■ 縦置き収納型



■ 横置き収納型



縦置き収納型は、キーボードを使わないときに、キーボードを縦置きにすることができるタイプ(スタンドタイプ)で、机上のスペースを広くすることができます。

横置き収納型は、キーボードを使わないときも、横置きのままのタイプです。

使用上の注意

Nキーロールオーバー

Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

USB接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB接続のキーボードを抜き差しする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windowsを再起動してください。

98

APMモードからACPIモードへの切り替え後の注意

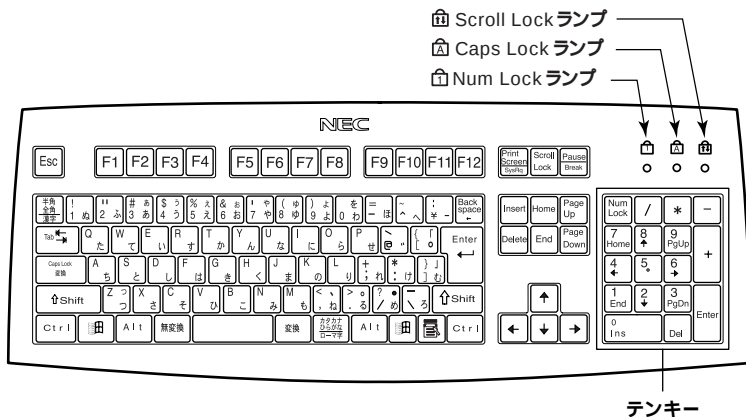
USB98配列キーボードの場合、APMモードからACPIモードへの切り替えを実行すると、キーボードの設定が¹⁰⁶日本語(A01)に変わってしまいます。切り替え完了後、再設定してください。

設定方法については、「Mate / Mate R電子マニュアル」を起動して「補足説明」をクリック、または「スタート」ボタン→「プログラム」→「補足説明」をご覧ください。

PS/2 109キーボード、USB109キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



Esc : エスケープキー

F1 ~ F12 : ファンクションキー

Print Screen : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)

Pause Break : ポーズ/ブレイクキー

半角/全角漢字 : 半角/全角/漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock 英数 : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら
【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)

↑Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

Windows キー : Windowsキー

-  : アプリケーションキー
WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。
-  : オルトキー
 : 無変換キー
 : スペースキー
 : 変換キー
 : カタカナひらがな/ローマ字キー
 : エンターキー
 : バックスペースキー
-  : インサートキー
 : デリートキー
 : ホームキー
 : エンドキー
 : ページアップキー
 : ページダウンキー
 : カーソル移動キー
 : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」

参照 Windowsキーとアプリケーションキー→Windowsのヘルプ

キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード

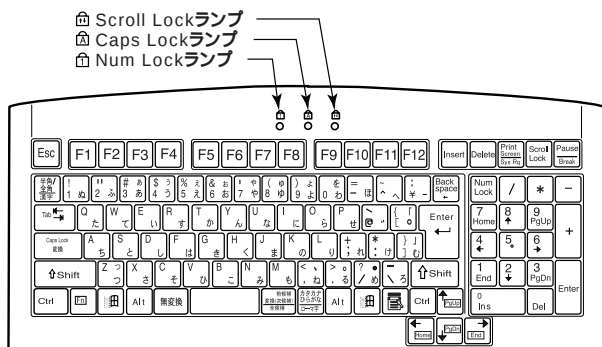
キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。()内はテンキー付きPS/2小型キーボード(横置き収納型)の場合のキーです。

■ テンキー付きPS/2小型キーボード(縦置き収納型)、テンキー付きUSB小型キーボードの場合



■ テンキー付きPS/2小型キーボード(横置き収納型)の場合



 : エスケープキー

 ~  : ファンクションキー

 () : プリントスクリーンキー

 : スクロールロックキー

一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)

 : ポーズ/ブ레이크キー

 : 半角/全角/漢字キー

 : タブキー

 : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)

 : シフトキー

 : コントロールキー

 : Windowsキー

 : アプリケーションキー
WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。

 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー

 () : 変換キー

 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー

 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

    :

カーソル移動キー

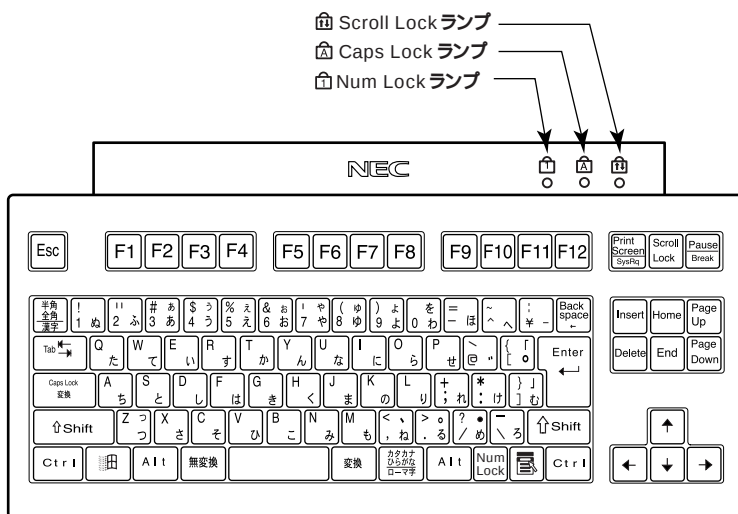
 : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)

 : Fnキー→【Fn】を押しながらカーソル移動キーを押すと、【Page Up】【Page Down】【End】【Home】にすることができます。

キーのロックについては、「キーをロックする (P.57)」をご覧ください。

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



	: エスケープキー		: オルトキー
	～  : ファンクションキー		: 無変換キー
	: プリントスクリーンキー		: スペースキー
	: スクロールロックキー		: 変換キー
	一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)		: カタカナひらがな/ローマ字キー
	: ポーズ/ブレイクキー		: エンターキー
	: 半角/全角/漢字キー		: バックスペースキー
	: タブキー		: インサートキー
	: キャプスロック/英数キー		: デリートキー
	【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)		: ホームキー
	: シフトキー		: エンドキー
	: コントロールキー		: ページアップキー
	: Windowsキー		: ページダウンキー
	: アプリケーションキー		: カーソル移動キー
	WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。		: ニューメリックロックキー
			一度押すとニューメリックロックし、Num Lock ランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.57)

参照 Windowsキーとアプリケーションキー→Windowsのヘルプ

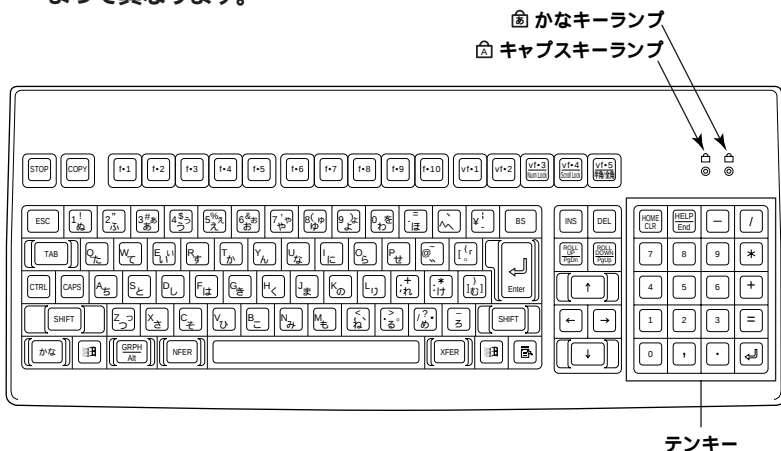
キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.57)をご覧ください。

USB98配列キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



A : キャプスキーランプ
【CAPS】を押すと点灯します。

かな : かなキーランプ
【かな】を押すと点灯します。

CAPS : キャプスキー

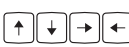
かな : かなキー

COPY : コピーキー

f・1 ~ **f・10** **vf・1** ~ **vf・2**
: ファンクションキー

vf・3 Num Lock : Windows Meでは、Num Lockは常にONになっています。DOSモード/DOSプロンプト上ではNum Lockの切り替えが可能です。

vf・4 Scroll Lock : Windows Meではファンクションキーとして動作します。DOSモード/DOSプロンプト上ではScroll Lockとして動作します。

	: Windows Meではファンクションキーとして動作します。DOSモード/DOSプロンプト上またはWindows NTでは半角/全角として動作します。		: カーソルキー
			: エンターキー
	: バックスペースキー		: シフトキー
	: インサートキー		: Windowsキー
	: デリートキー		: アプリケーションキー
	: ホームクリアキー		: エクスファークキー
	: ヘルプキー/エンドキー		: スペースキー
	: ロールアップキー/ページダウンキー		: エヌファークキー
	: ロールダウンキー/ページアップキー		: グラフキー/オルトキー
			: コントロールキー
			: タブキー
			: エスケープキー
			: ストップキー

 **チェック!** 下記は、使用しているモードによって動作が異なりますので注意してください。

キー入力	Windows	DOSモード/DOSプロンプト
半角カナ入力	可能	不可
テンキー【=】、【.】	可能	不可
【`]または【SHIFT】+【^】	【'】	【`】
【`]または【SHIFT】+【.】	【.】	【`]
【ろ】	入力なし	【¥】
日本語入力切り替え	【CTRL】+【XFER】または【XFER】	【GRPH】+【v-f.5】
【Num Lock】切り替え	不可	可能
【v-f.3】	【v-f.3】	【Num Lock】
【v-f.4】	【v-f.4】	【Scroll Lock】
【v-f.5】	【v-f.5】	【半角/全角】
【CAPS】切り替え	【CAPS】	【SHIFT】+【CAPS】

 **参照** Windowsキーとアプリケーションキー→Windowsのヘルプ

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

■ Windows Meの場合

日本語入力プログラム	アプリケーション レスモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子 10バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME2000			
ATOK13			

：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

：インストールされている日本語入力プログラム

■ Windows 98の場合

日本語入力プログラム	アプリケーション レスモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子 10バック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME98			
MS-IME2000			
ATOK13			

：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

：インストールされている日本語入力プログラム

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

- PS/2 109キーボード、テンキー付きPS/2小型キーボード、USB109キーボード、USB小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボードの場合
 - ・ キーボードの【Alt】を押しながら【半角/全角/漢字】を押す
 - ・ タスクバーの右下のをクリックし、表示されるメニューから選択する
- USB98配列キーボードの場合
 - ・ 【CTRL】を押しながら【XFER】を押す
 - ・ タスクバーの右下のをクリックし、表示されるメニューから選択する



チェック!!

NEC 98 Layout Keyboard(XFER)を設定した場合、MS-IME 98、MS-IME 2000で【XFER】で日本語入力をOFFにすることはできません。【XFER】で日本語入力をOFFにできるようにするには、「Microsoft IME 98詳細プロパティ」または「Microsoft IME 2000詳細プロパティ」の「キーの設定」で、【変換】の「入力/変換済み文字なし」の設定を「再変換」から「-」に変更してください。

日本語変換の手順

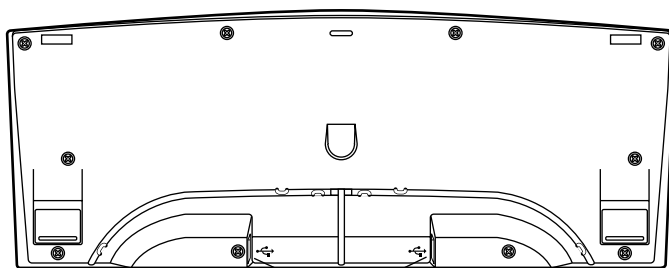
日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IMEまたはATOK13のヘルプをご覧ください。



日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続のキーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが装備されています。1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが接続されます。ハブを2つ装備しているキーボードの残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。



USBバスパワーハブ

電源容量による接続の制限

- ・ USB接続のキーボードのUSBハブは、USBバスパワーハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続のキーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。

メモ ハイパワーデバイス、ローパワーデバイス

ハイパワーデバイス: 接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。

例) PK-UP001 (フルカラーイメージスキャナ)

PK-MC202 (デジタルビデオカメラ)

PK-MC202E (デジタルビデオカメラ)

ローパワーデバイス: 接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

例) PK-UP004E、PK-UP008 (バーコードリーダ)

- ・ USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

マウス

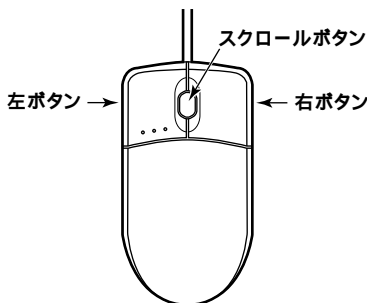
ここでは、マウスの使用方法について説明します。

参照

マウス→Windowsのヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスは、スクロールボタン付きマウスです。



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。

また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときにスクロールアイコンが表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。



チェック!!

スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。



ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使用の用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。また、別売の外付けディスプレイを接続して表示することもできます。

参照 ▶ ディスプレイ → Windows のヘルプ

使用上の注意

- ・ リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。機種によってはリフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定を「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れることがあります。
- ・ 使用するディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。

参照 ▶ 液晶ディスプレイ調整ツール → 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」

- ・ 次の別売のディスプレイは使用できません。

PC-KM174

PC-KM212

表示能力

本機では、表示する解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。

MA80T/T、MA66H/T

■ 液晶ディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できるディスプレイとの対応			
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	14型 液晶ディス プレイ	15型 液晶ディス プレイ	15.4型 液晶ディス プレイ	18型 液晶ディス プレイ
				F14T62	F15T52	F15R52	F18S1W
640×480	256色	31.5	60				
	65,536色	37.5	75				
	1,677万色	43.3	85	×	×	×	×
800×600	256色	37.9	60				
	65,536色	46.9	75				
	1,677万色	53.7	85	×	×	×	×
1,024×768	256色	48.4	60				×
	65,536色	60.0	75				
	1,677万色	68.7	85	×	×	×	×
1,280×1,024	256色	64.0	60	×	×		
	65,536色	80.0	75	×	×		
	1,677万色	91.1	85	×	×	×	×
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	×	×
		93.8	75	×	×	×	×
		106.3	85	×	×	×	×

■ CRTディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できるディスプレイとの対応		
解像度 [ドット]	表示色	水平走査周 波数 [KHz]	垂直走査周 波数 [Hz]	15型 CRTディス プレイ	17型 CRTディス プレイ	19型 CRTディス プレイ
				DV15A3	DV17D2	FE91
640×480	256色	31.5	60			
	65,536色	37.5	75			
	1,677万色	43.3	85			
800×600	256色	37.9	60			
	65,536色	46.9	75			
	1,677万色	53.7	85			
1,024×768	256色	48.4	60			
	65,536色	60.0	75			
	1,677万色	68.7	85			
1,280×1,024	256色	64.0	60	×		
	65,536色	80.0	75	×	×	
	1,677万色	91.1	85	×	×	
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	
		93.8	75	×	×	
		106.3	85	×	×	×

■ 液晶ディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できるディスプレイとの対応			
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	14型 液晶ディス プレイ	15型 液晶ディス プレイ	15.4型 液晶ディス プレイ	18型 液晶ディス プレイ
				F14T41W	F15T2W	F15R42W	F18S1W
640×480	256色	31.5	60				
	65,536色	37.5	75				
	1,677万色	43.3	85	×	×	×	×
800×600	256色	37.9	60				
	65,536色	46.9	75				
	1,677万色	53.7	85	×	×	×	×
1,024×768	256色	48.4	60	×	×		×
	65,536色	60.0	75				
	1,677万色	68.7	85	×	×	×	×
1,280×1,024	256色	64.0	60	×	×		
	65,536色	80.0	75	×	×		
	1,677万色	91.1	85	×	×	×	×
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	×	×
		93.8	75	×	×	×	×
		106.3	85	×	×	×	×

■ CRTディスプレイの場合

本機の表示能力				セクションメニューで選択できるディスプレイとの対応		
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15型 CRTディス プレイ	17型 CRTディス プレイ	19型 CRTディス プレイ
				DV15A3	DV17D2	FE90
640×480	256色	31.5	60			
	65,536色	37.5	75			
	1,677万色	43.3	85			
800×600	256色	37.9	60			
	65,536色	46.9	75			
	1,677万色	53.7	85			
1,024×768	256色	48.4	60			
	65,536色	60.0	75			
	1,677万色	68.7	85			
1,280×1,024	256色	64.0	60	×		
	65,536色	80.0	75	×	×	
	1,677万色	91.1	85	×	×	
1,600×1,200	256色	75.0	60	×	×	
		93.8	75	×	×	
		106.3	85	×	×	×

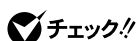
ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Management System)に対応しています。ディスプレイセットモデルをご購入のお客様は、ディスプレイの省電力機能が使用できます。

工場出荷時の設定は、次のようになっており、マウスやキーボードからの入力がない状態が続くと、ディスプレイの省電力モードになります。

本体	Windows Meの場合		Windows 98の場合
	エネルギースター対応	エネルギースター未対応	エネルギースター未対応
工場出荷時の設定	約15分	約15分	約15分

約20分後には休止状態に移行して、ディスプレイの省電力機能が働き続けます。



チェック!

省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



- ・ VESAでは、ディスプレイの電源の状態をオン(電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード(スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ(電源が切れた状態)と定義しています。
- ・ エネルギースター対応のモデルは、省エネルギーのため工場出荷時に休止状態になるように設定してあります。本機が該当するかは、型番を調べればわかりますので、『はじめにお読みください スーパースリムタワー型』をご覧ください。

別売のディスプレイを使う

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、「表示能力」(P.69)を参考に、適合するディスプレイを使用してください。



本体が、ディスプレイにあわせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればスキャンディスクを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

△ 注 意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- 温度、湿度条件を守ってください。
温度10 ～ 35 、湿度20% ～ 80%(ただし結露しないこと)
- ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。
- 電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- 電源を切るときは、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックして電源を切ってください。正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータがこわれてしまうことがあります。
- 電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。

また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

参照 ▶ Windowsのヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パソコンは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windowsの「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
20Gバイト	20,000,000,000バイト以上
30Gバイト	30,000,000,000バイト以上
60Gバイト	60,000,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

メモ

本機で使用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

なお、領域を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドについては『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows Meインストールモデル)または『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)の「ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする(カスタム再セットアップ)」をご覧ください。

■ Windows Meの場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ 1	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、4GB、FAT32)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Eドライブ 2	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

- 1 FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合は割り当てられていません。
- 2 CDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合は割り当てられていません。

■ Windows 98の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ 1	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Qドライブ 2	CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ

- 1 FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合は割り当てられていません。
- 2 CDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合は割り当てられていません。

スキャンディスクの操作手順

スキャンディスクを使用すると、ハードディスクのファイルやフォルダにデータエラーがないかチェックできます。

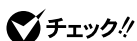
Windowsが起動している場合(通常の場合)

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「スキャンディスク」をクリック
- 2 エラーをチェックするドライブを選択する
- 3 「チェック方法」で「標準」を選択する
- 4 「エラーを自動的に修復」をクリックしてチェックを付ける
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「結果レポート」が表示されたらレポートを読み、エラーが発見されなかった場合は「閉じる」ボタンをクリック
エラーが発見された場合は、画面の指示に従ってください。
- 7 もう一度「閉じる」ボタンをクリック

Windowsが起動できなかった場合(異常があった場合)

■ Windows Meの場合

Windows Meの場合は次の手順を行ってください。



チェック!

FDレスモデル、CDレスモデル、FDCDレスモデルをお使いの場合、作業するためには別売のオプションが必要になります。
作業を行う前に添付のマニュアルをご覧ください。

FDレスモデル

- ・ スーパースリムタワー型用増設FDドライブキット(PC-MA-C02)

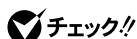
CDレスモデル

- ・ スーパースリムタワー型用増設CD-ROMドライブキット(PC-MA-C01)

FDCDレスモデル

- ・ スーパースリムタワー型用増設FDドライブキット(PC-MA-C02)
- ・ スーパースリムタワー型用増設CD-ROMドライブキット(PC-MA-C01)

- 1 本体の電源を入れる
- 2 すぐにフロッピーディスクドライブに「Windows Me起動ディスク」をセットする
「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されます。
- 3 「Start computer with CD-ROM support.」を選択して、**【Enter】**を押す
しばらくすると「キーボードのタイプを判定します。」と表示されます。
- 4 **【半角/全角】**を押す
- 5 コマンドプロンプトから次のように入力する
scandisk [ドライブ名:] **【Enter】**
- 6 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択し、修復する
- 7 「クラスタスキャンを実行しますか?」のメッセージが表示されたら矢印キーで「いいえ」を選択し、**【Enter】**を押す
- 8 **【X】**を押してスキャンディスクを終了する



定期的にスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

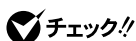
メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にスキャンディスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「メンテナンスウィザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows Meインストールモデル)をご覧ください。

■ Windows 98の場合

Windows 98の場合は次の手順を行ってください。

- 1 本体の電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴが表示されたら、すぐに【ctrl】を「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで押す
- 3 「5.Command prompt only」を選択し、【Enter】を押す
- 4 コマンド プロンプトから scandisk と入力し、【Enter】を押す
- 5 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択し、修復する
- 6 「クラスタスキャンを実行しますか?」のメッセージが表示されたら矢印キーで「いいえ」を選択し、【Enter】を押す
- 7 【X】を押してスキャンディスクを終了する



定期的にスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にスキャンディスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「メンテナンスウィザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド 再セットアップ編』(Windows 98インストールモデル)をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

使用上の注意

- ・ フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。
- ・ フロッピーディスクは、利用するときにだけフロッピーディスクドライブに入れてください。フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりによって読み書きエラーの原因になります。
- ・ 同じフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用により、フロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーの原因になります。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	Windows Me		Windows 98	
		読み書き	フォーマット	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×	×	×
	720KB				
2HD	1.2MB		×		×
	1.44MB				



チェック!!

Windows Meで1.2MBの媒体を利用する場合()3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。

参照

3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップ『活用ガイド ソフトウェア編』他のOSを利用する『Windows Meを利用する(省スペース型、スーパースリムタワー型)』フロッピーディスクドライブのセットアップ

**チェック!!**

- ・ 1.2MBのフロッピーディスクは、Windowsの「ディスクのコピー」でバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください（これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です）。
- ・ 未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットする場合、ディスクのチェックに時間がかかる場合があります。フォーマット開始後にフロッピーディスクドライブのアクセスランプがつきっぱなしになった場合は、しばらくするとフォーマット処理が開始されます。
- ・ マイコンピュータまたはエクスプローラで2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、フロッピーディスクをドライブから一度取り出し、再度入れてからご使用ください。フォーマット後、フロッピーディスクを取り出さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していてもエラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクにはこの手順は必要ありません。

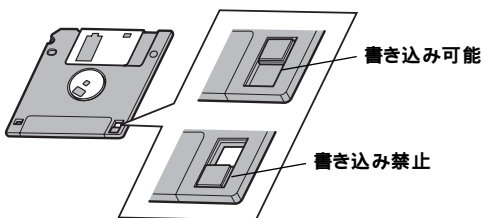
**参照** フロッピーディスクのフォーマット→Windowsのヘルプ

1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



CD-ROMドライブ

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカを破損したりする原因となります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠したCD、または下記の表中のCDを再生・表示することができます。

■ CD-ROMのサイズ

CD-ROMのサイズ	
8センチ	12センチ
○	○

■ CD-ROMの規格

規 格	概 要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された動画用のCD-ROM
CD Extra(CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-R(CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW(CD-ReWritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM



チェック! 本機にはサウンド機能が搭載されていないので、音声などは再生できません。

CD-ROMドライブ使用上の注意

CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

非常時のディスクの取り出し

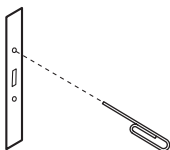
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

✓**チェック!!** 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

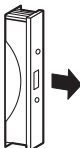
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



- 2 非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む



CD-R/RWドライブ

CD-R/W(Compact Disc Recordable/Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-RW対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-R/RWドライブでは、ISO9660に準拠したCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。再生できるCDについては、「CD-ROMドライブ」再生できるCDの種類(P.83)の表をご覧ください。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能を加えたものです。

使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。

書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」のヘルプをご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-R/RWドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、「Easy CD Creator」または「DirectCD」が必要です。使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加の「Easy CD Creator」または「DirectCD」をご覧ください。



チェック!!

- ・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- ・作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。

CD-R/RWドライブ使用上の注意

CD-R/RWドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、強制的に取り出すことができます。

非常時のディスクの取り出し手順については、「CD-ROMドライブ」非常時のディスクの取り出し (P.84) をご覧ください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

参照 ▶ 「PART4 付録」機能一覧〔P.180〕

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。



チェック!!

- ・ 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。
- ・ 搭載されているLANボードは、接続先の機器との通信速度(100Mbps/10Mbps)を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重(Half Duplex)に設定してください。

LANの設定(Windows Meの場合)

ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については次の通りです。Windows Meのヘルプとサポートの中にあるオンライン形式の「Windows Millennium Editionを使う」の中にある「Windows Meスタートガイド」のネットワーク関連の項目をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「ネットワーク」をダブルクリック
- 4 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 5 必要な機能を追加

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「ネットワーク」をダブルクリック
- 4 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 5 共有サービスを追加
- 6 「識別情報」タブをクリック
- 7 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力

8 「OK」ボタンをクリック

- ✓ **チェック!** 設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

LANの設定(Windows 98の場合)

ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については次の通りです。

『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』の「第5章 高度な機能」の「ネットワークを使う」をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 必要な機能を追加

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 共有サービスを追加
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力

7 「OK」ボタンをクリック

-  **チェック!** 設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

ネットワークパスワードの変更(Windows Meの場合)

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「パスワード」をダブルクリック
- 4 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードの変更」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択して「OK」ボタンをクリック
- 6 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 7 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「パスワード」をダブルクリック
- 4 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワードの変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの選択」の画面で、「Microsoftネットワーク」を選択して「変更」ボタンをクリック
- 6 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 7 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「パスワード」をダブルクリック
- 4 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック

- 5 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

ネットワークパスワードの変更(Windows 98の場合)

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「Windowsパスワードの変更」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択して「OK」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの選択」の画面で、「Microsoftネットワーク」を選択して「変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの変更」の画面で、「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

リモートパワーオン機能の設定(Windows Meの場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。なお、別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

リモートパワーオン	電源が切れている状態から電源を入れる	○
	スタンバイ状態から復帰する	○
	休止状態から復帰する	○

✓チェック!! 前回のシステム終了(電源を切る、スタンバイ状態にする、休止状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows Meを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。

電源が切れている状態からのリモートパワーオンの設定

電源が切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1** コンピュータの電源を入れる
- 2** NECのロゴ画面が表示されたら、【F2】を押す
- 3** メニューバーの「Advanced」→「On PME」を「Power On」に設定する
- 4** 【F10】を押す
- 5** 「Yes」を選択し、【Enter】を押す

✓チェック!! 必要に応じて、「Network Boot Setting」(P.171)の設定も行ってください。
以上で完了です。

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1 Windows Meを起動する
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3 「システム」をダブルクリック
- 4 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 5 「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 6 「電源の管理」タブをクリック
- 7 「節電のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックボックスをオンにする
- 8 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックボックスをオンにする
- 9 「OK」ボタンをクリック
- 10 「OK」ボタンをクリック
- 11 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
- 12 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 13 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「No Action」に設定する
- 14 「OK」ボタンをクリック

15 「OK」ボタンをクリック

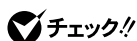
16 Windows Meを再起動する

以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定(Windows 98の場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。なお、別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要です。

リモートパワーオン	電源が切れている状態から電源を入れる	APMモード	○
		ACPIモード	×
	スタンバイ状態から復帰する	APMモード	○
		ACPIモード	○



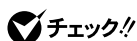
チェック!

前回のシステム終了(電源を切る、スタンバイ状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows 98を起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。

■ Windows 98 APMモードの場合

電源が切れている状態およびスタンバイ状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1 コンピュータの電源を入れる
- 2 NECのロゴ画面が表示されたら、【F2】を押す
- 3 メニューバーの「Advanced」→「On PME」を「Power On」に設定する
- 4 【F10】を押す
- 5 「Yes」を選択し、【Enter】を押す



チェック!

必要に応じて、「Network Boot Setting (P.171)の設定も行ってください。

- 6 Windows 98を起動する
 - 7 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
 - 8 「ネットワーク」をダブルクリック
 - 9 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「Intel 825x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
 - 10 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「Enabled」に設定する
 - 11 「OK」ボタンをクリック
 - 12 「OK」ボタンをクリック
 - 13 Windows 98を再起動する
- 以上で完了です。

- Windows 98 ACPIモードの場合
スタンバイ状態からリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1 Windows 98を起動する
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3 「システム」をダブルクリック
- 4 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 5 「Intel 825x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック

- 6** 「電源の管理」タブをクリック
 - 7** 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」のチェックボックスをオンにする
 - 8** 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックボックスをオンにする
 - 9** 「OK」ボタンをクリック
 - 10** 「OK」ボタンをクリック
 - 11** 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
 - 12** 「ネットワーク設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「Intel 825x-based PCI Ethernet Adapter(10/100)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
 - 13** 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「No Action」に設定する
 - 14** 「OK」ボタンをクリック
 - 15** 「OK」ボタンをクリック
 - 16** Windows 98を再起動する
- 以上で完了です。

FAXモデムボード

FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、FAX通信機能、データ通信機能などを利用できます。ATコマンドについては、『ATコマンド』[ここをクリック](#)をご覧ください。

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・ハイパーターミナル

その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。

FAX通信機能

本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。

また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

最高56,000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国CONEXANT SYSTEMS社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56,000bps、送信時最高33,600bpsのデータ通信が可能です。

電話回線を利用して、最高56,000bpsの全二重データ通信と最高14,400bpsの半二重FAX通信ができます。

K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

FAXモデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線（以降、加入電話回線と呼びます）総合デジタル通信網（ISDN）、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

→「技術基準等適合認定について」(P.7)

加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。

FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、NECフィールドイングの各支店、営業所にお問い合わせください。

NECフィールドイングの電話番号等については、添付の『NEC PCあんしんサポートガイド』をご覧ください。

分岐アダプタ

電話回線のモジュージャックが1つの場合、本機で通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機などのモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタをご購入ください。

接続する電話機などの種類によっては動作しない機種がありますのでご注意ください。

また、接続する電話機などによっては、FAXモデムボードが正常に通信できない場合があります。正常に通信できない場合は、次のいずれかの方法で正常に通信できるようになります。

- ・ 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合はアース線をつなぐ。
- ・ モデムによる通信の際は、電話機などを取り外す。

通信するときの注意

- ・ 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話回線は2線式のみです。
- ・ 分岐アダプタを使ってパソコンと電話機などの両方を接続している場合、パソコンで回線を使っているときは、電話機などの受話器を外さないでください。パソコンの通信が妨害され、切断されることがあります。

- ・ FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号にあわせた調整が必要です。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカーや保守業者、第1種通信事業者(NTTなど)に確認してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)(工場出荷時の設定)に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9,600bps以下にしてください。
- ・ 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

COMポートの設定

FAXモデムボードが標準で搭載されているモデルのモデムのポート番号は、変更できません。工場出荷時の状態で使用してください。

セキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をセキュリティ/マネジメントするための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)(I/Oロック)
- ・ 本体の盗難やパスワードの解除を防止する。(筐体ロック)
- ・ システム管理者向けと一般ユーザ向けの利用環境を設定し、使用できる機能を制限する。(CyberAccess)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

98 スマートカードの利用

以下の別売のオプションを利用することで、本体起動時にスマートカードを差し込むだけでWindowsのログイン、スクリーンセーバのロック解除の際の個人認証をすることができます。なお、本機ではBIOSレベルでの認証(BIOS LOCK)はできません。

- ・ スマートカードリーダー/ライタ(PCカードタイプ)(PK-SM004)
- ・ スマートカードアプリケーション(管理者)(PK-SM005)
- ・ スマートカードアプリケーション(ユーザ)(PK-SM006)
- ・ スマートカード(PK-SM003)

参照 スマートカードアプリケーション(管理者)(PK-SM005)に添付のマニュアル

パスワードの設定

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「Password On Boot」を「Enabled」に設定してください。



チェック!

スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Password On Boot」が「Enabled」に設定されている状態で、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するには、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」にしなければなりません。

98 ファイル暗号化

PGPは、ファイルやフォルダをパスワード付きで暗号化し、データの漏洩防止やプライバシーを保護します。また、Windowsのログオン/ログオフ時にファイルやフォルダを暗号化/復号化したり、暗号化したファイルを電子メールなどで相手に送信したときもパスワードを入力するだけで復号化できます。



参照

『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「PGP」

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O（フロッピーディスクドライブ）を利用できないようにする機能です。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションソフトをインストールすることを防止することができます。また、FDレスモデル、CDレスモデル、FD/CDレスモデルは、このような概念からあらかじめフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブが搭載されていません。



参照

「PART3 システム設定」『Securityの設定』の「I/Oロック（P.171）」

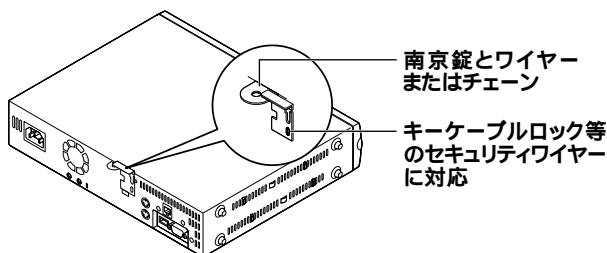
筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体の盗難やスーパーバイザ/ ユーザパスワードの解除の防止に役立てることができます。筐体ロックは市販のロック付き盗難防止ケーブルを使用することができます。1つは南京錠とワイヤーまたはチェーンを利用することができ、もう1つはキーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。なお、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーの入手方法については、次の国内総販売代理店にお問い合わせください。

日本ボラデジタル株式会社 第三営業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-5-2はごろもビル5F

TEL : 03-3537-1070 FAX : 03-3537-1071



ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。



「PART2 周辺機器を利用する」『ケーブルストッパの取り付け/取り外し』
(P.122)

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「VirusScan」を使用します。



『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の
「VirusScan for Windows Me」,「VirusScan for Windows 98」

エンドユーザ管理

本機に添付されているCyberAccessを使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。また、別売のCyberAccess Ver3.0により、管理者PCから一括して設定、変更することができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「CyberAccess」

マネジメント機能

98 ソフトウェアパワーOFF機能

Windows動作中に誤って電源スイッチに触れるなど、不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。

参照 「電源(Windows 98の場合)」(P.39)

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。

管理パソコンからのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを発信する管理パソコンに別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)が必要です。パワーオンメッセージを受信するパソコンには別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)とリモートパワーオンの設定が必要です。

参照 リモートパワーオンの設定→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」
「リモートパワーオン機能の設定(Windows Meの場合)」(P.94)または「リモートパワーオン機能の設定(Windows 98の場合)」(P.96)

リモートコントロール

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作（ ）を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作することができます。その際にはシステム管理者のマシンに別売のDMITOO Ver 8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付) またはpcAnywhere (Symantec社製) が、クライアントのマシンには別売のDMITOO Ver 8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付) が必要です。

アプリケーションによっては、できないものがあります。

なお、商品の最新情報は、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で提供しています。

<http://121ware.com/>

「ダウンロードモジュール」→「NECサポートプログラム」

ネットワークブート機能

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1以上により、OSのセットアップ、BIOSフラッシュ (BIOS ROMの書き換え) 、BIOS設定変更の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作することができます。



参照 「PART3 システム設定」の「Advancedの設定」(P.165)

一括ファイル配信

管理者PCからリモート操作で、複数のクライアントPCに対して一括でファイルやアプリケーションの配信が行えます。管理者PCには別売のESMPRO/DeliveryManager、クライアントPCには別売のESMPRO/DeliveryManagerクライアントが必要です。

クライアントモニタリング

離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGER Ver3.0などを利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

本機能を利用するためには、別売のDMITOO Ver 8.1 (pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付) が必要です。

■ 資源管理

本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

■ 状態監視

筐体内温度、電圧、CPUファン監視機能から障害監視機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

周辺機器を利用する

別売の周辺機器の取り付け/取り外し方法や注意事項などを説明しています。

この章の読み方

次ページの「接続できる周辺機器」、「接続にともなう注意点」(P.111)を読んだ後に、目的にあわせて次に該当するページを読んでください。

この章の内容

接続できる周辺機器	110
接続にともなう注意点	111
本体カバー類の取り外し	117
ケーブルストッパの取り付け/取り外し	122
増設RAMサブボード(メモリ)の取り外し/取り付け	125
FAXモデムボードの取り外し/取り付け	130
PCカードを利用する	134
ファイルベイ用内蔵機器の取り付け/取り外し	142
ストラップスイッチの設定	153

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を取り付けられます。

専用5インチベイ用内蔵機器
(→「ファイルベイ用内蔵機器の
取り付け/取り外し」(P.142))

PCカード(本体正面)
(→「PCカードを利用する」
(P.134))

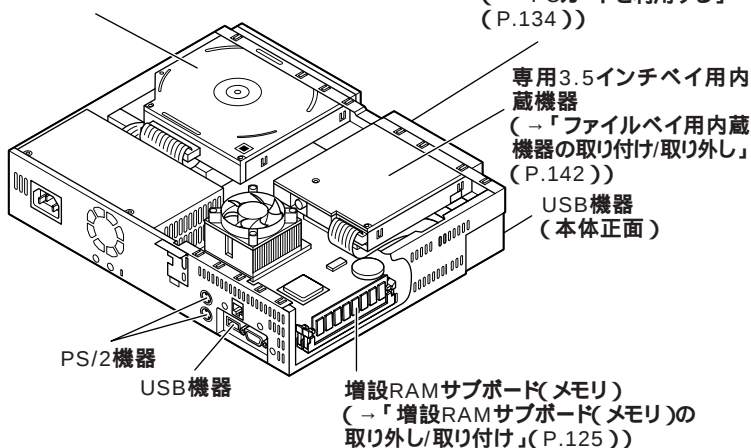
専用3.5インチベイ用内
蔵機器
(→「ファイルベイ用内蔵
機器の取り付け/取り外し」
(P.142))

USB機器
(本体正面)

PS/2機器

USB機器

増設RAMサブボード(メモリ)
(→「増設RAMサブボード(メモリ)の
取り外し/取り付け」(P.125))



接続にともなう注意点

周辺機器を取り付ける場合、次のようなことに注意してください。

接続前の確認

- 取り付けたい周辺機器は、本機で使えるものですか？

取り付けたい周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルで確認するか、製造元に問い合わせてください。なお、NEC製の周辺機器で接続可否の確認がとれているものについては、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で紹介しています。

<http://121ware.com/>

「レスキュー」→「商品の適合検索」

- リソースは確保されていますか？

周辺機器を使うには、「リソース」が必要です。「デバイスマネージャ」で、その周辺機器で使用されるリソースが空いているかどうか確認してください。リソースが足りない場合は、使わない機器や機能のリソースを空けて、その分を取り付けたい周辺機器が使えるよう設定を変更します。

プラグ&プレイ セットアップについて

周辺機器の中には、デバイスドライバ(デバイスのためのソフトウェア)のセットアップが必要なものがあります。

プラグ&プレイとは、取り付けたハードウェアを自動的に検出してセットアップを行うWindowsの機能です。

新しいハードウェアを取り付けると、次に電源を入れたときにWindowsによって自動的に新たなハードウェアが検出され、必要に応じてデバイスドライバウィザードが起動されます。外付けの周辺機器を接続した場合は、本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

周辺機器にデバイスドライバのフロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されている場合は、周辺機器のマニュアルの指示に従ってセットアップを行ってください。

デバイスドライバの追加について

- ・ 周辺機器によっては、デバイスドライバのセットアップが必要な場合があります。周辺機器のマニュアルをご覧ください、必要なデバイスドライバを組み込んでください。
- ・ デバイスドライバを組み込んだ後、本機の再起動を求められることがあります。その際には他の操作をせずに直ちにWindowsを再起動してください。
- ・ デバイスドライバを組み込んだ後の再起動の際には、通常よりも時間がかかることがあります。正常に再起動されるまで電源は切らないでください。

接続時に注意すること

注 意



感電注意

- ・ 雷が鳴り出したら、本機や電源ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け/取り外しをしたりしないでください。
落雷による感電のおそれがあります。
- ・ 濡れた手で触らないでください。
電源ケーブルがACコンセントに取り付けられているときに、濡れた手で本体に触ると、感電の原因になります。
- ・ 電源ケーブルがACコンセントに取り付けられているときは、本体のカバー類を取り外さないでください。
感電の原因になります。
- ・ 周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
電源ケーブルがACコンセントに取り付けられたまま周辺機器の取り付け/取り外しをすると、本機や周辺機器の故障、場合によっては感電の原因となります。



けが注意

- ・ 本体内部に手を入れるときは、指をはさんだりぶつかけたりしないように注意してください。

⚠ 注 意



高温注意

- ・本機の使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをすることがあります。カバーを外す場合は、電源を切った後、30分以上たってから行うことをおすすめします。



感電注意

- ・本体を、カバーを外した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。



発火注意

- ・周辺機器は、このマニュアルや周辺機器のマニュアルに従って正しく取り付けてください。正しく取り付けられていないと、発煙や火災の原因となります。



発火注意

接続がうまくできない場合

- ケーブルは正しく取り付けられていますか？
見落としがちなことですが、本機や周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたりすることはよくあります。ケーブルがきちんと取り付けられているか、確認してください。
- デバイスドライバは組み込みましたか？最新のものですか？
周辺機器を取り付けてもデバイスドライバが組み込まれていないと、使うことはできません。周辺機器のマニュアルをご覧ください。デバイスドライバを組み込んでください。
また、周辺機器のデバイスドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「デバイスドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、デバイスドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器の製造元に問い合わせて、最新のデバイスドライバを入手してください。なお、NEC製の最新ドライバはNECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で提供しています。
<http://121ware.com/>
「■ダウンロードモジュール」→「NECサポートプログラム」

- READMEファイルや「補足説明」を読みましたか？
アプリケーションに付いているREADMEファイルには、マニュアルやヘルプに記載されていない重要な情報が掲載されていることがあります。
また、「補足説明」には、本機をご利用にあたっての注意事項や、マニュアルには記載されていない最新の情報について説明しています。添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に入っている「Mate/Mate R電子マニュアル」からご覧になれます。また、以下の方法でもご覧になれます。
・「スタートボタン」→「プログラム」→「補足説明」
- 周辺機器を複数取り付けたため、何が原因かわからなくなっていますか？
このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外します。その後、1つずつ取り付けては本機を起動させるという作業を繰り返します。本機が起動しないなどの現象を発生させる機器があったら、その機器に問題があります。リソースの設定やデバイスドライバの設定などが正しく設定されているか、確認してください。
- トラブルが起きていませんか？
『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A』からあてはまりそうなトラブルを探してください。あてはまる項目が見つからない場合は、「トラブルを解決するには(ヒント)」をご覧ください。

リソースの競合が起きたら

PCカードは、プラグ&プレイに対応しているため基本的には設定不要ですが、本機が作動しない場合は、リソースの競合が起きているかもしれませんのでここをお読みください。

最もリソースの競合が起きやすいのは、本機に新しい機器が追加された場合です。新しい機器が検知されたときにシステムの状態が調べられます。

新しい機器がプラグ&プレイに対応している場合は、リソースの競合が起きないように自動的に設定されます。新しい機器がプラグ&プレイに対応していない場合は、リソースの競合が起けるとドライバを組み込めなくなります。本機が起動しなくなるような競合に対しては、二重三重の保護機能が働くように設定されているからです。

ドライバの異常、リソースの競合など何らかの障害があると、アイコンに黄色い「！」マークや赤い「×」マークが表示されます。Windowsで、リソースの競合が起きているかどうかは、以下の方法で確認してください。

■ Windows Meの場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3 「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」の「デバイスマネージャ」タブで確認できます。

■ Windows 98の場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」の「デバイスマネージャ」タブで確認できます。



チェック!!

USB接続のキーボードとマウスをご使用の場合は、PS/2互換マウスポートに黄色い「!」が表示されますが、異常ではありません。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

■ Windows Meの場合

- 1 「リソース」タブを開く
- 2 「自動設定」のチェックを外す
- 3 「基本にする設定」で別の構成を選んでから、「設定の変更」をクリック

■ Windows 98の場合

- 1 「リソース」タブを開く
- 2 「自動設定を行う」のチェックを外す

3 「リソースの種類」から競合しているリソースを選択し、ダブルクリック

4 表示されたリソースの設定値を変更する



チェック!!

選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。なお、本機のリソースについては、「PART4 付録」の「割り込みレベル・DMAチャンネル (P.187) をご覧ください。

本体カバー類の取り外し

ここでは、周辺機器や内蔵機器を取り付けるときなどに必要なカバー類の取り外し方について説明します。

カバーの取り外し

メモリなどの内蔵機器を取り付ける場合は、本体のカバーを取り外す必要があります。

- 1 本機の電源を切る
- 2 本体に接続されているすべてのケーブル(電源ケーブル、アース線など)を取り外す
- 3 盗難防止用の錠を使用している場合は、取り外す
- 4 横置きにしている場合は、手順8に進む
縦置きにしている場合は、本体を横に置く

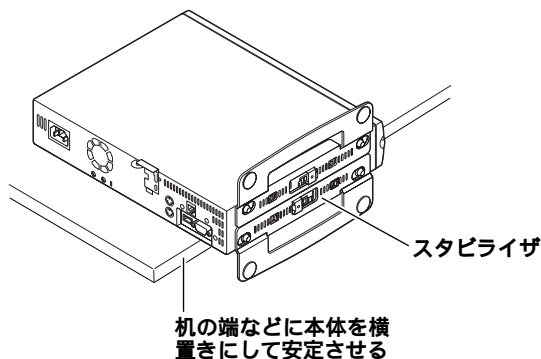


チェック!

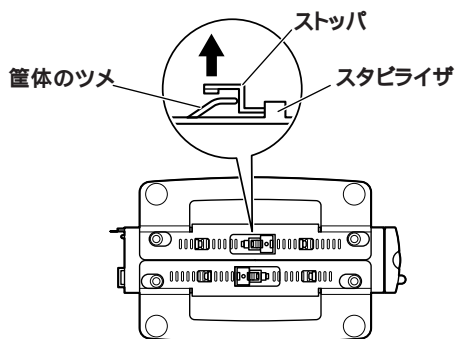
スタビライザを取り外したときに、本体が衝撃を受けないように、机の端などでスタビライザの取り外しを行ってください。



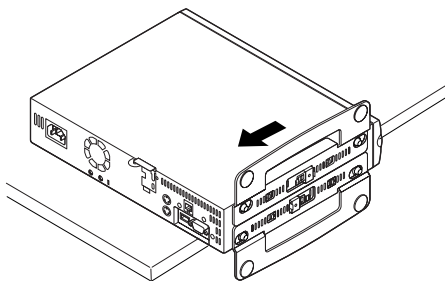
本体を横に置くときは、机やテーブルなどを傷付けたりしないように、厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。



- 5** スタビライザのストッパを手前に引いて、筐体のツメからストッパを外す



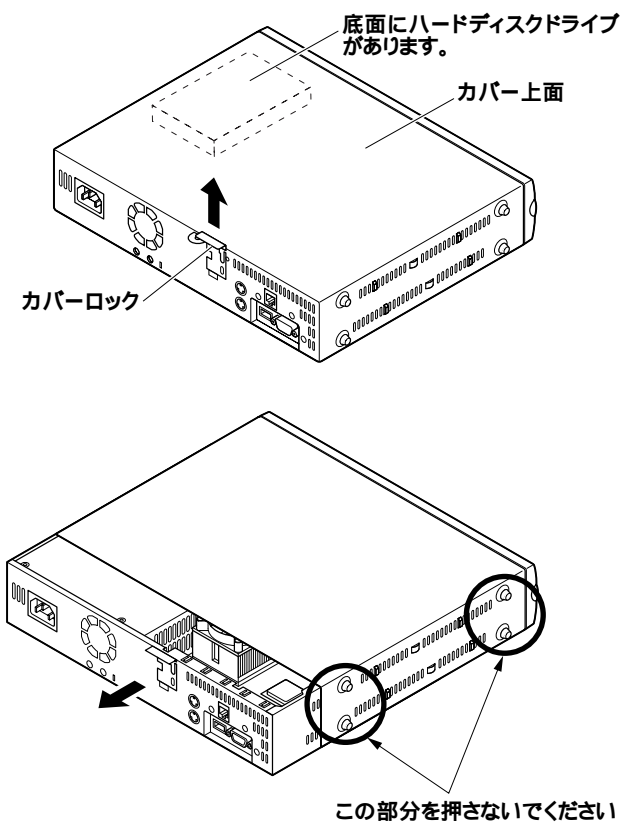
- 6** 上側に付いているスタビライザを左方向に引いて、本体から取り外す



- 7** もう一方のスタビライザも手順5、手順6と同じ方法で取り外す

8 カバー上面を手で抑え、カバーロックを上引き上げたまま、手前に引き出すようにして、本体をカバーから取り外す

✓ **チェック!** カバーを取り外すと、ハードディスクドライブの基板面があらわれます。この部分を触ると、ハードディスクドライブの故障の原因となりますので、触らないように注意してください。

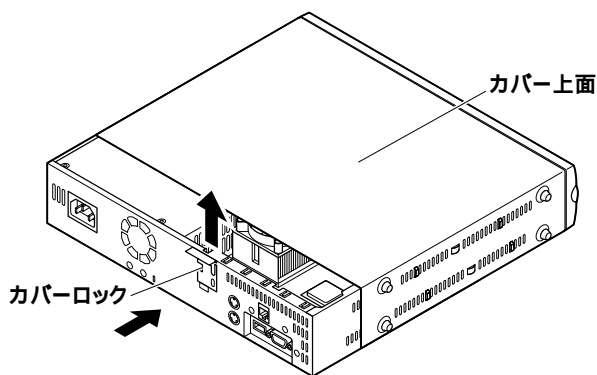


カバーの取り付け

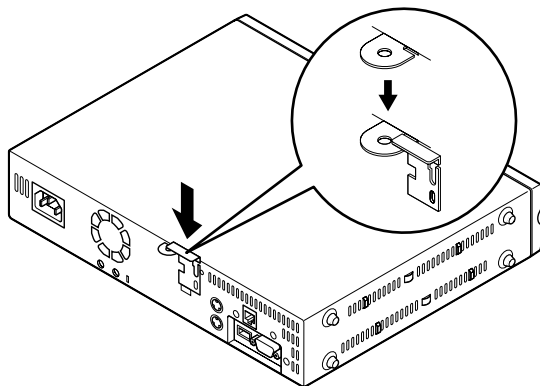
カバーを取り付けるときには、次のように作業すると取り付けやすくなっています。

- 1 カバー上面を手で抑え、カバーロックを上引き上げたまま、カバーの中に本体を押し込む

✓**チェック!** 本体をカバーに押し込むときは、本体の正面に手を触れないでください。フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルでは、誤ってフロッピーディスクドライブが本体から外れることがあります。

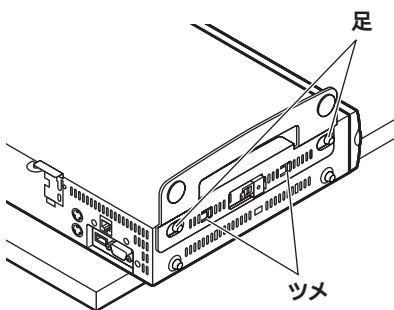


- 2 本体を奥まで押し込んで、筐体ロックの切り欠きにカバーロックを差し込むようにして、カバーロックを押し下げる

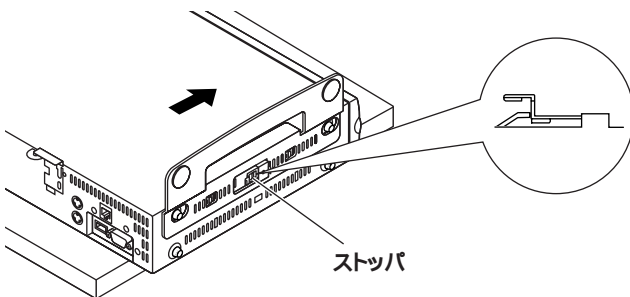


- 3** 横置きで使用する場合は、手順7に進む
縦置きで使用する場合は、机の端などに本体を横置きにし、
本体を安定させる

- 4** 片方のスタビライザを本体のツメと足にあわせる



- 5** スタビライザを矢印方向にストッパがロックされるまでスライドさせる



- 6** もう一方のスタビライザも、手順4、手順5と同じ方法で取り付け、縦置きにする

- 7** 盗難防止用の錠を使用する場合は、錠を取り付ける

- 8** ケーブル類(電源ケーブル、アース線など)を必要に応じて取り付け

ケーブルストッパの取り付け/取り外し

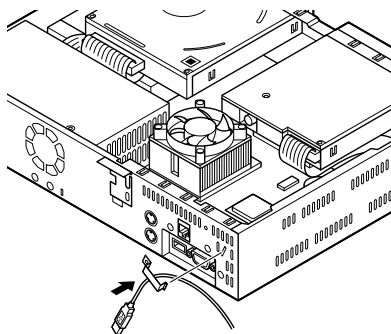
キーボードやマウスの盗難防止とともに、ケーブル抜け防止のために、本機に添付されているケーブルストッパでケーブルを本体に固定します。

取り付け前の確認

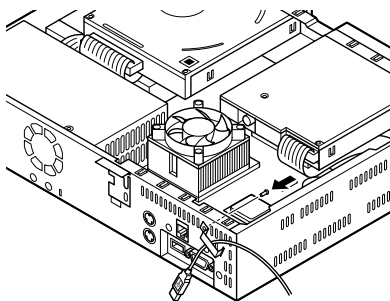
本機にケーブルストッパを取り付ける前に、ケーブルストッパとネジ1個が、本機に添付されていることを確認してください。

ケーブルとケーブルストッパの取り付け

- 1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)
- 2 ケーブルストッパのツメ(ネジ穴の空いていない方)を本体の溝に差し込み、キーボード、PS/2接続マウスケーブルの上からケーブルストッパをかぶせる



- 3** ケーブルストップパのネジ穴と本体のネジ穴をあわせて、本体内部からケーブルごとケーブルストップパを、本機に添付のネジで止める

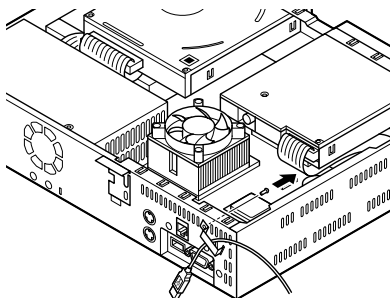


✓チェック!! フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルで、ネジが止めにくい場合は、フロッピーディスクドライブを取り外してから、ネジを止めてください。フロッピーディスクドライブの取り外し方は、「FAXモデムボードの取り外し」(P.130)を参照してください。

- 4** 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.120)

ケーブルとケーブルストップパの取り外し

- 1** 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)
- 2** 本体内部からネジを外して、ケーブルストップパとケーブルを本体から取り外す



- ✔ **チェック!** フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルで、ネジが外しにくい場合は、フロッピーディスクドライブを取り外してから、ネジを外してください。フロッピーディスクドライブの取り外し方は、「FAXモデムボードの取り外し」(P.130)を参照してください。

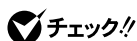
3 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.120)

- ✔ **チェック!** 取り外したネジとケーブルストッパは、紛失しないように、手近な箱や袋などに保管してください。

増設RAMサブボード(メモリ)の取り外し/取り付け

大量のメモリを必要とするOSやアプリケーションを使用する場合には、別売の増設RAMサブボードを取り付けることで、メモリを増やすことができます。

取り付け前の確認



チェック!

本機に増設RAMサブボードを取り付ける前に、取り付けられる増設RAMサブボード、取り付け順序、スロットの位置を確認します。

Windows Meまたは、Windows 98を使用する場合、増設可能な最大メモリ容量は、512MBです。

取り付けられる増設RAMサブボード

本機には、増設RAMサブボードを1枚単位で、最大2枚まで取り付けられます。

取り付け可能な増設RAMサブボードについては、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で紹介しています。

<http://121ware.com/>

「レスキュー」→「商品の適合検索」

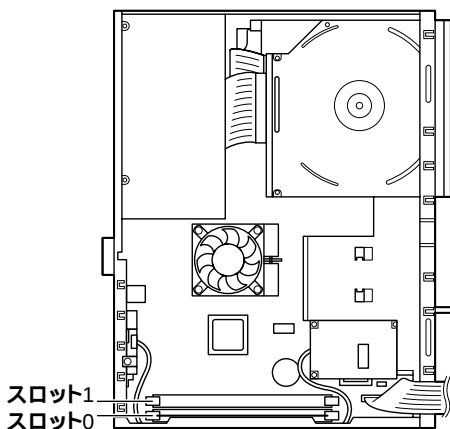
スロットへの取り付け順序

必ずスロット番号が小さい方から埋まるように取り付けてください。スロット0から順番に取り付けることになります。

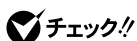
増設RAMサブボード組み合わせ例

合計容量	スロット0	スロット1
64MB	64MB	-
	32MB	32MB
96MB	64MB	32MB
128MB	128MB	-
	64MB	64MB
160MB	128MB	32MB
192MB	128MB	64MB
256MB	128MB	128MB
512MB	256MB	256MB

スロットの位置



増設RAMサブボードの取り外し

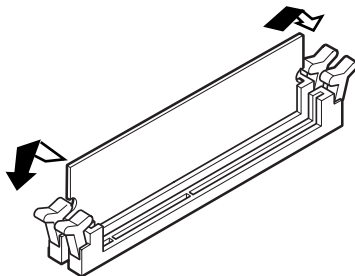


チェック!

増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードを破損させる原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

2 増設RAMサブボードの左右のレバーを外側に広げる



- 3 増設RAMサブボードを上へ引き抜くようにして取り外す
取り外した増設RAMサブボードは静電気防止用の袋などに入れて保管してください。

- 4 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.120)

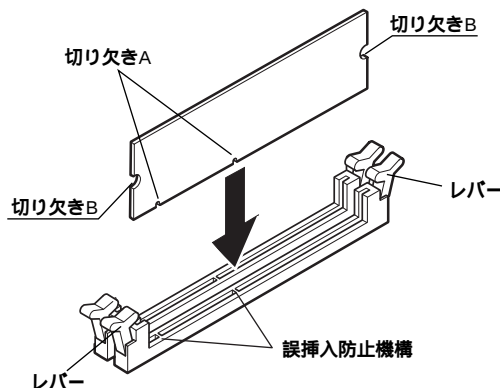
増設RAMサブボードの取り付け

- ✓**チェック!!** 増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードを破損させる原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

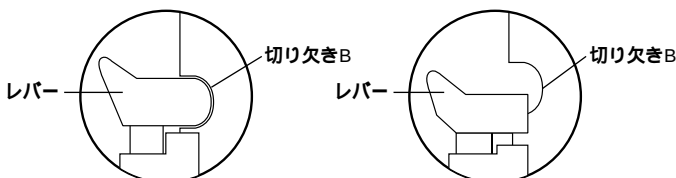
- 1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

- 2 増設RAMサブボードを切り欠きAの位置と誤挿入防止機構の位置を確認し、増設RAMサブボード用コネクタに垂直に差し込み、取り付ける
スロット0、1の順番に取り付けてください。

- ✓**チェック!!** 増設RAMサブボードには向きがあります。逆には差し込めなくなってしまいますが、向きを間違えたまま無理に差し込むと故障の原因になりますので注意してください。



- 3** 左右2ヵ所のレバーが切り欠きBに掛かるように、増設RAMサブボードをしっかりと押し込む



✓チェック! 増設RAMサブボードがしっかりと押し込まれたことを確認してください。しっかりと押し込まれていないと故障の原因となります。

- 4** 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.120)
メモリ取り付け後は、「メモリ容量の確認方法」に従って、取り付けが正しく行われたかどうか確認してください。

メモリ容量の確認方法

■ Windows Meの場合

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2** 「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリック
- 3** 「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリの容量が表示されます。

■ Windows 98の場合

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2** 「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリの容量が表示されます。

**チェック!!**

- ・ メモリの容量を確認すると、搭載されている容量より若干少ない容量が表示されることがあります。これはメインメモリがシステムに割り当てられるためで、故障ではありません。「PART3 システムの設定」の「Mainの設定」(P.162)を見て、「Extended Memory」で確認してください。
- ・ 電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの容量によって変わってきます。これは、メモリの初期化のためです。256MBを2枚増設した場合、約6秒かかります。



表示されたメモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、本機で使えるメモリを取り付けているかを確認してください。

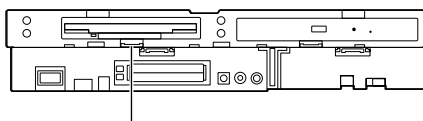
FAXモデムボードの取り外し/取り付け

FAXモデムボードの取り外し

- ✓チェック!** FAXモデムボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で、FAXモデムボードを扱うと、FAXモデムボードを破損させる原因となります。FAXモデムボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、FAXモデムボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に端子の部分を手で触れないように注意してください。

1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

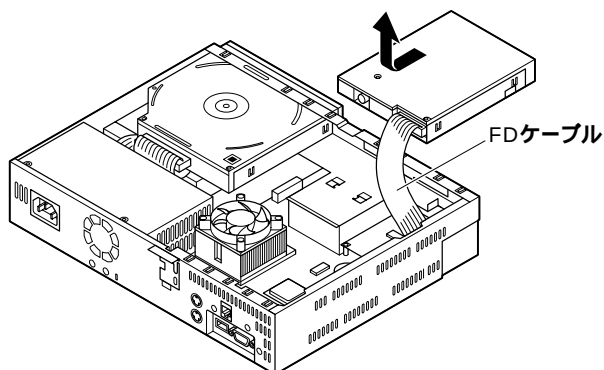
2 3.5インチベイストップを上に持ち上げロックを解除しながら、3.5インチベイストップを押し込み、フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットを取り外す



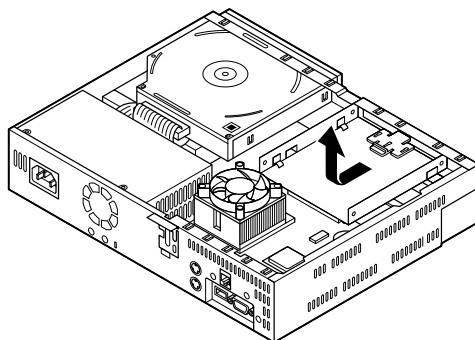
3.5インチベイストップ

✓チェック!! フロッピーディスクドライブを取り外すときは、FDケーブルを傷めないように注意してください。

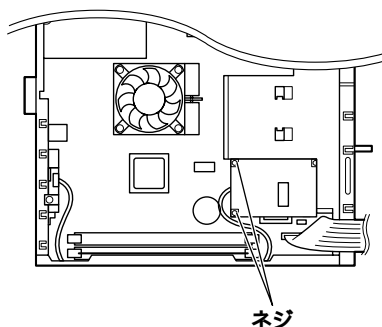
■ フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合



■ FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合



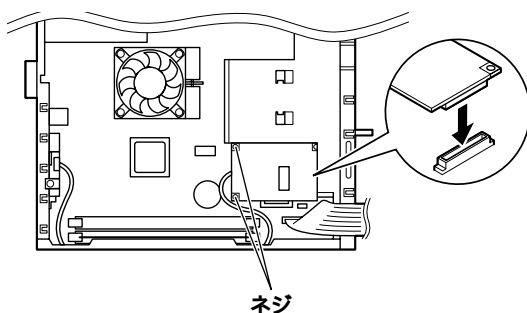
- 3** FAXモデムボードのネジ2本を取り外し、FAXモデムボードを上引き抜くようにして取り外す



FAXモデムボードの取り付け

- 1** FAXモデムボードを取り外したときと逆の手順で、まっすぐ下に差し込み、ネジ2本で本体に取り付ける

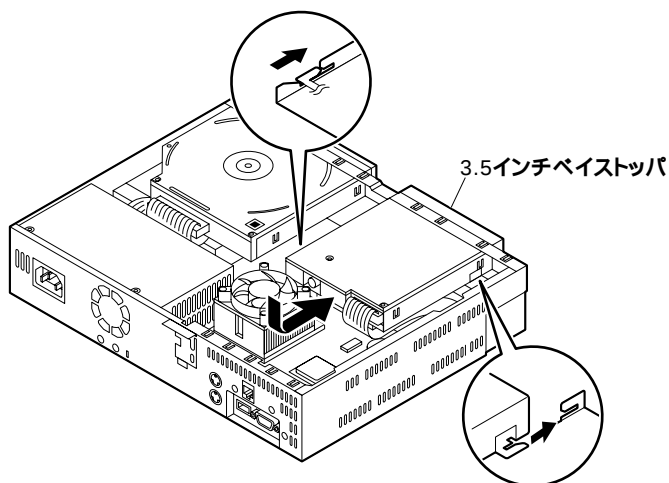
✓チェック!! FAXモデムボードの端子部分や、ボード上の部品、ハンダ付け面に触れないように注意してください。



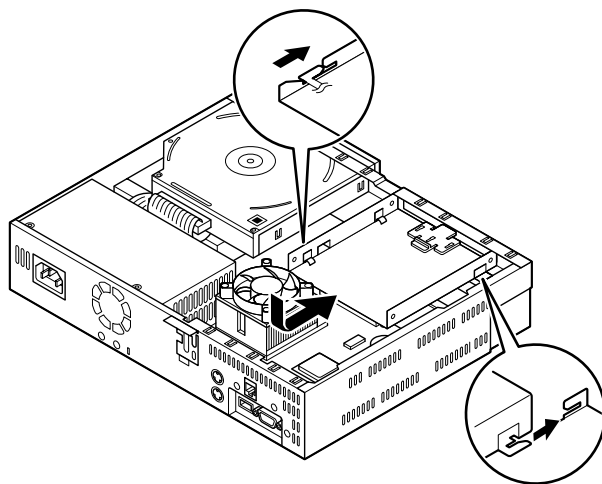
- 2** フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットの突起と本体側の溝2カ所をあわせて、3.5インチベイストッパが「カチッ」と音がしてロックされるまで、フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットを前に押し込み、取り付ける

✓チェック!! フロッピーディスクドライブを取り付けるとき、FDケーブルがフロッピーディスクドライブの下を通るように注意してください。

■ フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合



■ FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合



3 「カバーの取り付け」の手順で、カバーを取り付ける(P.120)

PCカードを利用する

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を取り付けることができます。

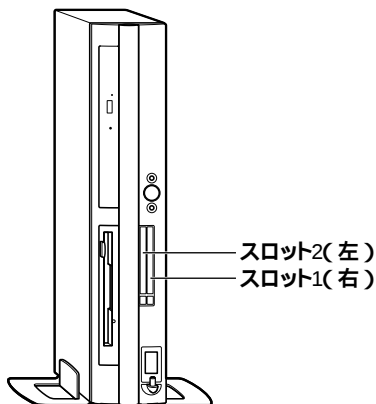
用 語 PCカード

PCカードとは、社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) と PCMCIA (Personal Computer Memory Card International Association) との間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。

PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモ리카ードやモデムカード、SCSI インタフェース対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカード (ATAカードなど) もあります。

PCカードスロットについて

- TYPE I か TYPE II のPCカードを左右のスロットに1枚ずつ2枚まで、または左右のスロットをあわせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
 - Card Bus対応のPCカードは両方のソケットのどちらでも使え、同時に両方のソケットで使うことができます。
- なお、本機は、ZVポートに対応していません。



使用上の注意

PCカードの取り扱い

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・ 濡らさないでください。
- ・ 重いものを載せたり、ねじ曲げたりなどしないでください。
- ・ ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・ PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・ 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

⚠ 注意



高温注意

- ・ 本機の使用直後はPCカードが熱くなっていますので、取り外し/取り付けにご注意ください。

Windows使用中の取り扱い

- ・ 本機がスタンバイ状態のときは、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データを消失させてしまうことがあります。
- ・ PCカードを抜き取っても、警告ダイアログが表示されない場合があります。
- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは、認識されない場合があります。
- ・ PCカードが2枚挿入されている状態では、PCカードを2枚同時に抜かないでください。
- ・ 一度CardBus対応PCカードを使用したスロットに、通常のPCカードを挿入した場合、正常に動作しない場合があります。この場合は、Windowsの再起動を行ってください。
- ・ ATAカードを挿入しているときにスタンバイ状態にすると、カードを挿入していないときより復帰する時間がかかります。
- ・ マルチファンクションカードとATAカードを同時に使用する場合は、スロット1にマルチファンクションカードを、スロット2にATAカードを挿入してご使用ください。

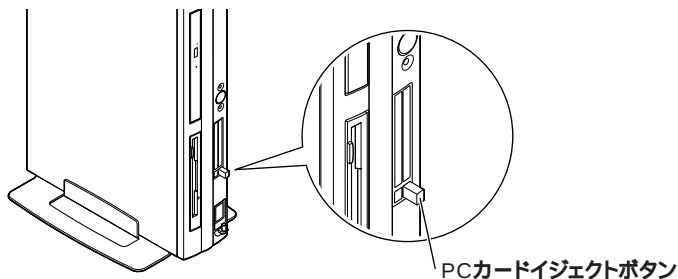
- CardBusカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生する場合があります。このとき、システムを再起動することで正常に組み込みが完了できる場合があります。
 - Windows Me、Windows 98のACPIモードの場合、本体PCカードスロットでSCSIまたはIDEインタフェースのCardBus対応PCカードをご使用の場合、正常にスタンバイ状態から復帰できない場合があります。これらのPCカードをご使用の場合には、スタンバイ状態にする前にPCカードを取り出してから、スタンバイ/スタンバイから復帰を行ってください。
 - SCSIカードに接続したハードディスクに対して、FDISKコマンドを実行する場合、電源が入っている状態で、SCSIカードを抜き差ししないでください。SCSIカードを抜き差ししてしまった場合は、Windowsを再起動してからFDISKコマンドを実行してください。
- 98 • PCカードを使用している間は、自動的にスタンバイ状態にならないようにしてください。また、スリープボタンを押したり、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選択しないでください。スタンバイ状態から復帰中または復帰してからPCカードをセットすると、パソコンが正常に動作しないことがあります。

PCカードの利用について

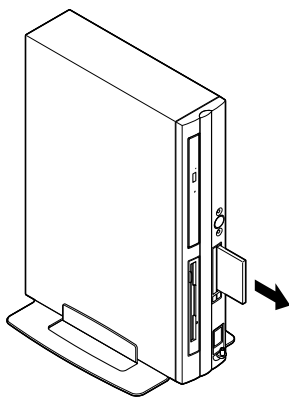
PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、「PART4 付録」割り込みレベル・DMAチャンネル (P.187) をご覧になって、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

PCカードの取り付け

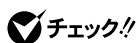
- 1 PCカードイジェクトボタンを指で軽く押し込んでから指を離す
PCカードイジェクトボタンが飛び出ます。



- 2 飛び出したPCカードイジェクトボタンをロックされるまで押し込む
ダミーカードが前に出てきます。



- 3 ダミーカードを取り出す



チェック!!

取り出したダミーカードは、紛失しないように手近な箱や袋などに保管してください。

- 4** PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして水平に静かに差し込む

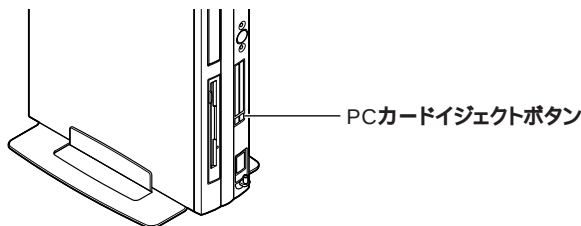
⚠ 注意

PCカードには表と裏があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損させるおそれがあります。

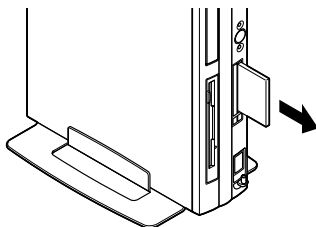
PCカードの取り外し

■ Windows Meの場合

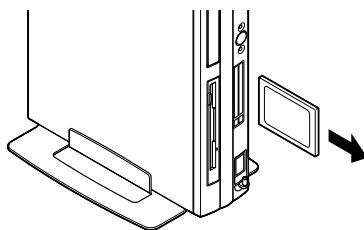
- 1** タスクトレイにあるPCカードのアイコンをダブルクリック
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
- 2** 取り出したいPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリック
- 3** 「ハードウェアデバイスの停止」画面で、「OK」ボタンをクリック
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。
- 4** 「OK」ボタンをクリック
- 5** 「閉じる」ボタンをクリック
- 6** PCカードイジェクトボタンを指で軽く押し込んでから指を離す
PCカードイジェクトボタンが飛び出ます。



- 7** 飛び出たPCカードイジェクトボタンをロックされるまで押し込む
カードが出てきます。



- 8** PCカードを静かに取り出す



- 9** ダミーカードを差し込む

△注意

PCカードスロットをむき出しの状態のままにしていると、PCカードスロットにゴミやほこりが入り、故障の原因となりますので、PCカードを使用しない場合は、PCカードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。

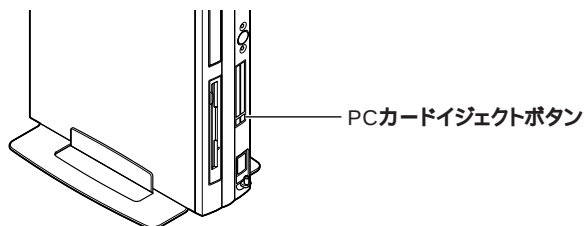
■ Windows 98の場合

- 1** タスクバーにあるPCカードのアイコンをダブルクリック
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 取り出したいPCカードをクリック

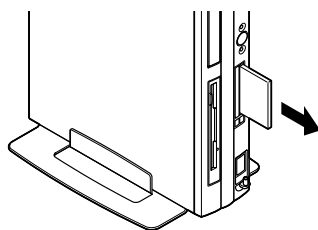
3 「終了」ボタンをクリック
しばらくすると、「このデバイスは安全に取り外せます」と表示されます。

4 「OK」ボタンをクリック

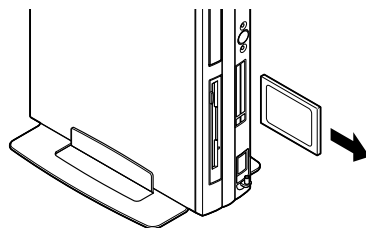
5 PCカードイジェクトボタンを指で軽く押し込んでから指を離す
PCカードイジェクトボタンが飛び出ます。



6 飛び出たPCカードイジェクトボタンをロックされるまで押し込む
カードが出てきます。



7 PCカードを静かに取り出す



8 ダミーカードを差し込む

⚠ 注意

PCカードスロットをむき出しの状態のままにしていると、PCカードスロットにゴミやほこりが入り、故障の原因となりますので、PCカードを使用しない場合は、PCカードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。



ファイルベイ用内蔵機器の取り付け/取り外し

FDレスモデル、CDレスモデルまたは、FDCDレスモデルで、再セットアップが必要になった場合には、フロッピーディスクドライブや、CD-ROMドライブを取り付けることができます。

ここでは、フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブなど、ファイルベイ用内蔵機器の取り付け/取り外し方について説明します。

取り付け/取り外し前の確認

本機にファイルベイ用内蔵機器を取り付ける前に、次の内容を確認します。

スロットの種類と数

本機には、ファイルベイが以下の通り装備されています。

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 専用3.5インチベイ ... | 1スロット(モデルによって実装されているドライブ数が異なります。) |
| 専用5インチベイ | 1スロット(モデルによって実装されているドライブ数が異なります。) |

ケーブル

ファイルベイ用のケーブルは、本機に添付されていません。ファイルベイ用内蔵機器に添付のケーブルを使用してください。

取り付け位置

「接続できる周辺機器」(P.110)で確認してください。

ドライブの設定

取り付けるファイルベイ用内蔵機器のマニュアルをご覧の上、次の設定であることを確認してください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 5インチベイ用内蔵機器(セカンダリマスタ) | Master(Slaveへの変更は不可) |
| フロッピーディスクドライブ | ユニットアドレス = 0(0以外への変更は不可) |

取り付け可能なファイルベイ用内蔵機器

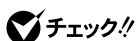
<http://121ware.com>

「レスキュー」→「商品の適合検索」のページをご覧ください。

専用3.5インチベイ

本機には、専用3.5インチベイが1スロット用意されています。FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合は、フロッピーディスクドライブなどの内蔵機器を取り付けることができます。

3.5インチベイ用内蔵機器の取り付け

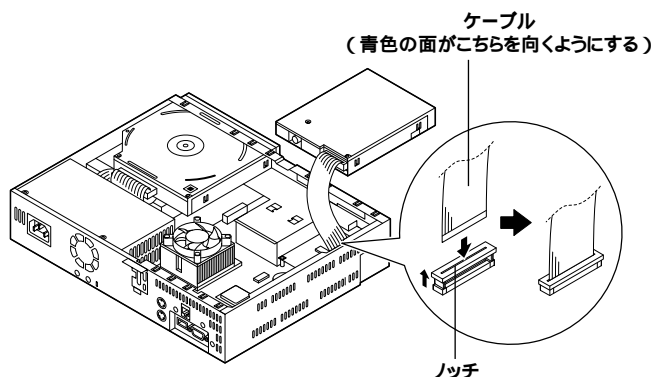


チェック!

ここからは、取り付ける3.5インチベイ用内蔵機器のマニュアルと一緒に見ながら取り付けてください。

1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

2 マザーボード上のコネクタのノッチを上側に引っ張り、ロックを外してから、3.5インチベイ用内蔵機器のコネクタの青色の面が正面から見て左を向くように、3.5インチベイ用内蔵機器のコネクタをマザーボードのコネクタに差し込み、コネクタのノッチを下げる



メモ

コネクタの両側から指などでノッチを上側に引っ張ると、ロックを外しやすくなります。

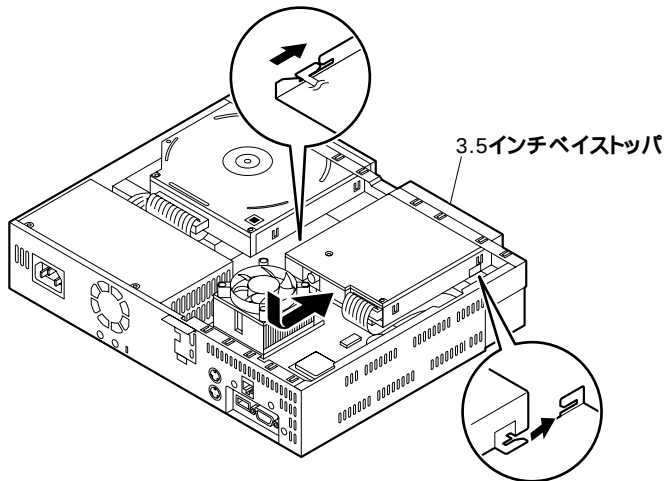
⚠ 注意



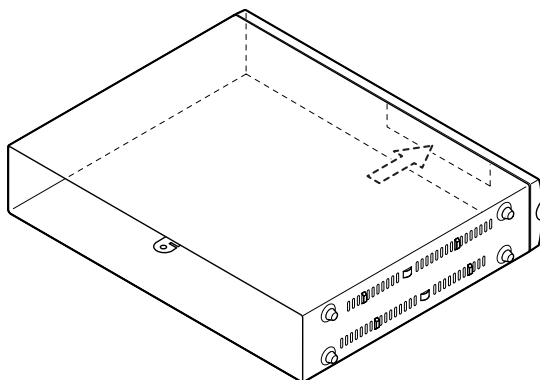
3.5インチベイ用内蔵機器のケーブルのコネクタには向きがあります。コネクタの向きを間違えたり、ななめに差し込んでから電源を入れたら発火しますので、向きを間違えたり、ななめに差し込まないように注意してください。

- 3** 3.5インチベイ用内蔵機器の突起と本体側の溝2カ所をあわせて、3.5インチベイストップが「カチッ」と音がしてロックされるまで、3.5インチベイ用内蔵機器を前に押し込み、取り付ける

✓チェック!! 3.5インチベイ用内蔵機器を取り付けるとき、ケーブルが3.5インチベイ用内蔵機器の下を通るように注意してください。

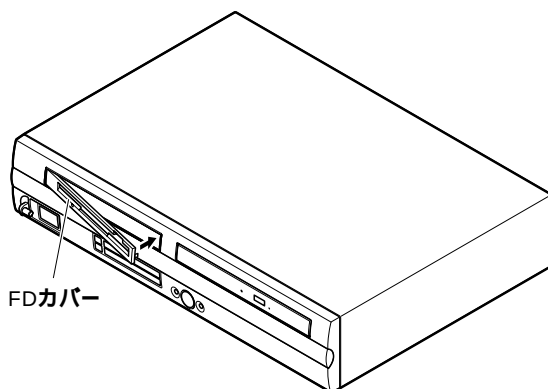


- 4** カバー背面から柄の長い工具などで、ブラंकカバーを前方に押し出し、取り外す



チェック!! 取り外したブラंकカバーは、紛失しないように手近な箱や袋などに保管してください。

- 5** 3.5インチベイ用内蔵機器に添付されているFDカバーの左端の突起をカバー内部の溝に差し込んでから、FDカバーの右端をカバーに押し込むようにして、取り付ける



- 6** 「カバーの取り付け」の手順で、カバーを取り付ける(P.120)

増設した3.5インチベイ用内蔵機器を確認する

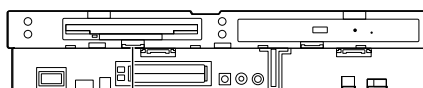
取り付けた3.5インチベイ用内蔵機器は、次の方法で確認することができます。

- 1 本機の電源を入れ、Windowsを起動させる
- 2 Windowsのデスクトップの画面の「マイコンピュータ」をダブルクリック
取り付けただけ、3.5インチベイ用内蔵機器のアイコンも増えて表示されています。

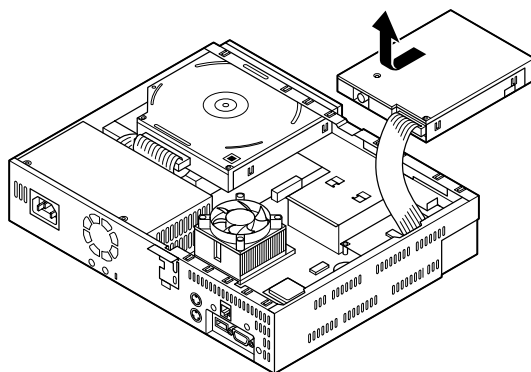
3.5インチベイ用内蔵機器の取り外し

3.5インチベイ用内蔵機器の取り外しを行う前に、3.5インチベイ用内蔵機器を取り付けたときに取り外したブラנקカバーを用意してください。

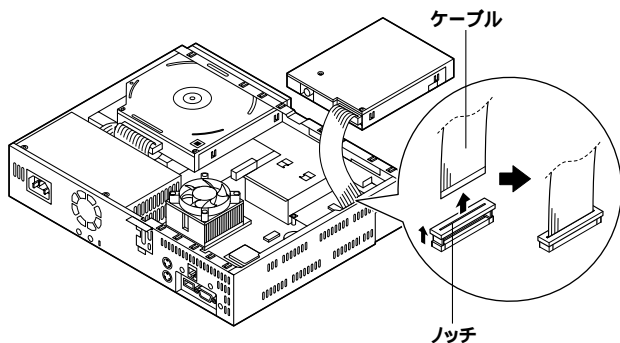
- 1 「カバーの取り外し」の手順で、カバーを取り外す(P.117)
- 2 3.5インチベイストッパを上を持ち上げロックを解除しながら、3.5インチベイストッパを押し込み、3.5インチベイ用内蔵機器を取り外す



3.5インチベイストッパ



- 3** 3.5インチベイ用内蔵機器のケーブルのマザーボード側のコネクタのノッチを上側に引っ張り、ロックを外してから3.5インチベイ用内蔵機器のケーブルを引き抜くようにして取り外す



メモ

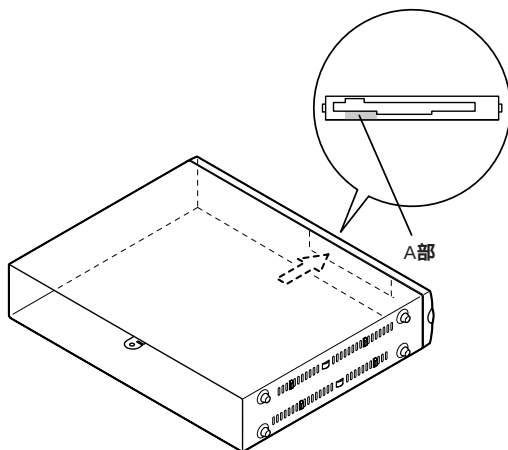
コネクタの両側から指などでノッチを上側に引っ張ると、ロックを外しやすくなります。

- 4** カバー背面から柄の長い工具などで、FDカバーのA部を前方に押し出し、取り外す

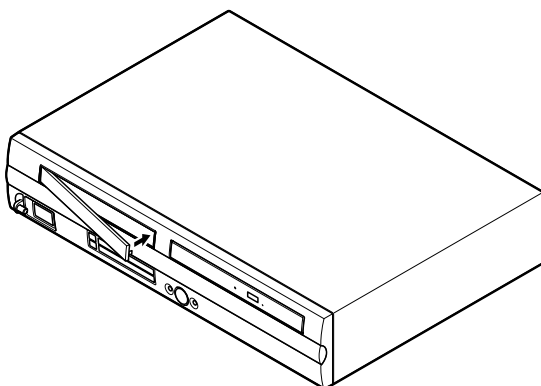


チェック!!

FDカバーを押し出すとき、A部以外の場所を押すと、FDカバーを破損させる恐れがありますので、ご注意ください。



- 5** ブランクカバーの左端の突起をカバー内部の溝に差し込んでから、ブランクカバーの右端をカバーに押し込むようにして、ブランクカバーをカバーに取り付ける



- 6** 「カバーの取り付け」の手順で、カバーを取り付ける(P.120)

専用5インチベイ

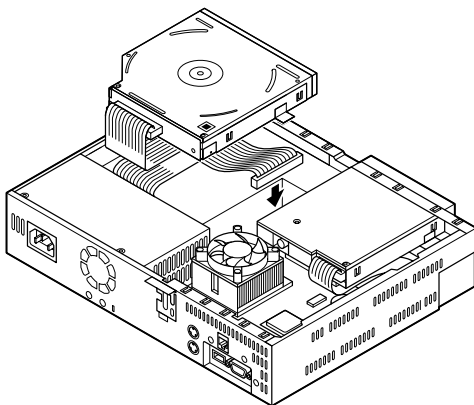
本機には、専用5インチベイが1スロット用意されています。CDレスモデル、FDレモデルの場合は、CD-ROMドライブなどの内蔵機器を取り付けることができます。

5インチベイ用内蔵機器の取り付け

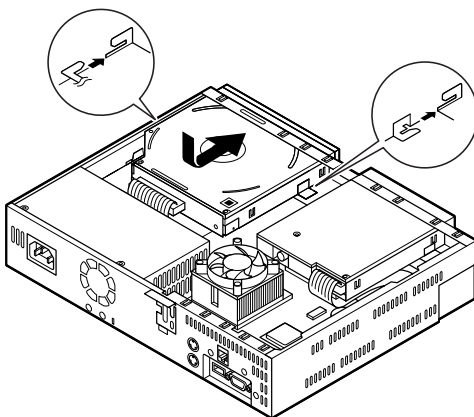
- ✓チェック!!** ここからは、取り付ける5インチベイ用内蔵機器のマニュアルと一緒にしながら取り付けてください。

- 1** 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

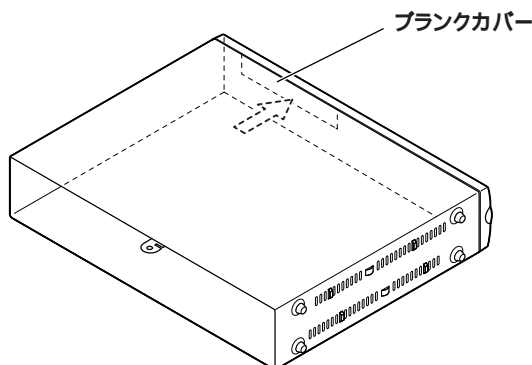
- 2** 5インチベイ用内蔵機器にあらかじめ取り付けられているケーブルのコネクタを本体に取り付ける



- 3** 5インチベイ用内蔵機器の突起2カ所と本体側の溝2カ所をあわせて、突起と溝がかみ合い、5インチベイストップがロックされるまで、5インチベイ用内蔵機器を前に押し込み、取り付ける。5インチベイ用内蔵機器を後ろに押しても動かないことを確認してください。



4 カバー背面から柄の長い工具などで、ブラंकカバーを前方に押し出し、取り外す



✓チェック!! 取り外したブラंकカバーは、紛失しないように手近な箱や袋などに保管してください。

5 「カバーの取り付け」の手順で、カバーを取り付ける(P.120)

増設した5インチベイ用内蔵機器を確認する

取り付けた5インチベイ用内蔵機器は、次の方法で確認することができます。

1 本機の電源を入れ、Windowsを起動させる

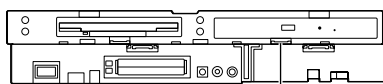
2 Windowsのデスクトップの画面の「マイコンピュータ」をダブルクリック

取り付けただけ、5インチベイ用内蔵機器のアイコンも増えて表示されています。

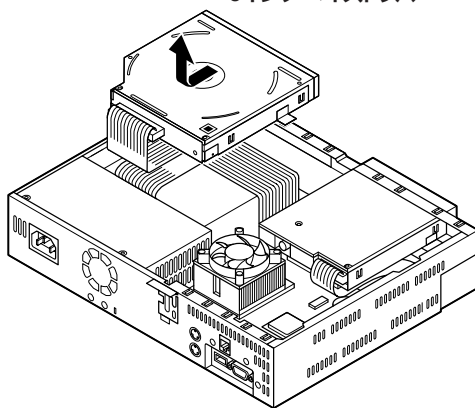
5インチベイ用内蔵機器の取り外し

5インチベイ用内蔵機器の取り外しを行う前に、5インチベイ用内蔵機器を取り付けたときに取り外したブラנקカバーを用意してください。

- 1 「カバーの取り外し」の手順で、カバーを取り外す(P.117)
- 2 5インチベイストッパを上を持ち上げロックを解除しながら、5インチベイストッパを押し込み、5インチベイ用内蔵機器を取り外す

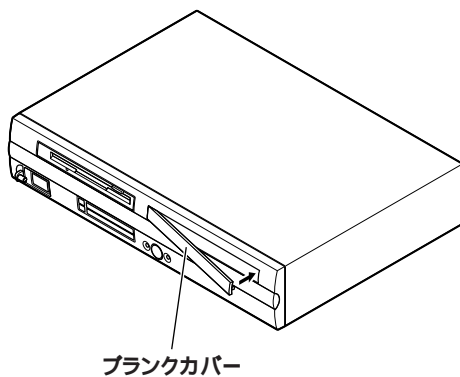


5インチベイストッパ



- 3 5インチベイ用内蔵機器に取り付けられているケーブルを取り外してから、本体側のケーブルを取り外す

- 4** ブランクカバーの左端の突起をカバー内部の溝に差し込んでから、ブランクカバーの右端をカバーに押し込むようにして、ブランクカバーをカバーに取り付ける



- 5** 「カバーの取り付け」の手順で、カバーを取り付ける(P.120)

ストラップスイッチの設定

BIOSセットアップメニューで設定したパスワードを解除したいときに、ストラップスイッチを利用します。

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

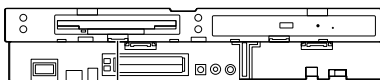
本機では、BIOSセットアップメニューを使用してスーパーバイザパスワードとユーザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れてしまった場合、次の方法でパスワードを解除することができます。通常のパスワードの解除の方法は、「PART3 システム設定」の「Securityの設定」(P.169)をご覧ください。

チェック!! 無断でパスワードを解除することを防ぐために、セキュリティロックに錠を取り付けることをおすすめします。

1 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

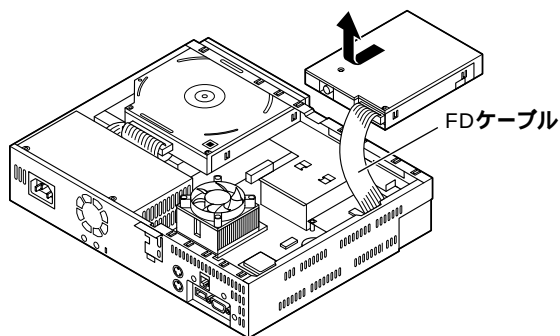
2 3.5インチベイストッパを上を持ち上げロックを解除しながら、3.5インチベイストッパを押し込み、フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットを取り外す

チェック!! フロッピーディスクドライブを取り外すときは、FDケーブルを傷めないように注意してください。

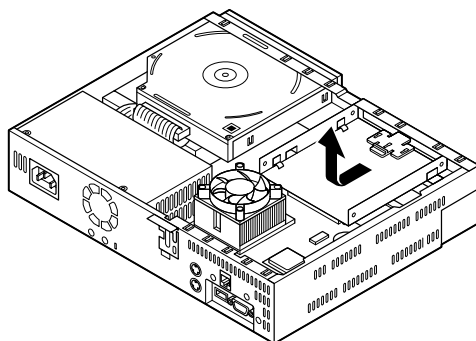


3.5インチベイストッパ

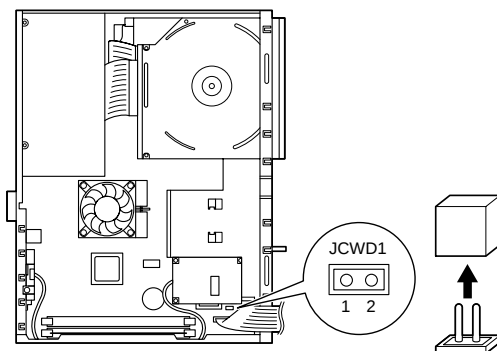
■ フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合



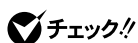
■ FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合



3 ストラップスイッチのジャンパを次の図のように引き抜く
抜いたジャンパはなくさないように保管してください。



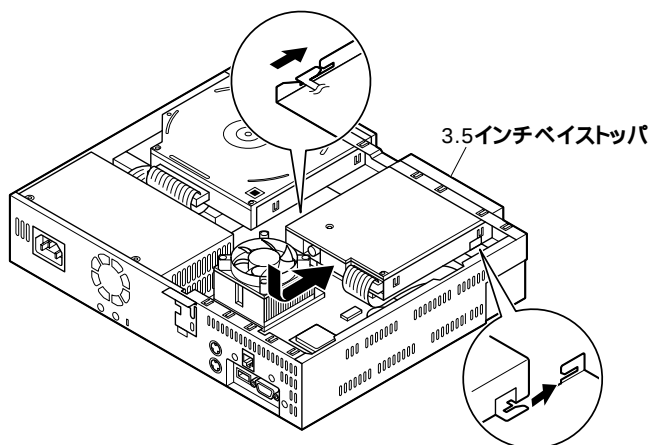
- 4** フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットの突起と本体側の溝2カ所をあわせて、3.5インチベイストッパが「カチッ」と音がしてロックされるまで、フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットを前に押し込み、取り付ける



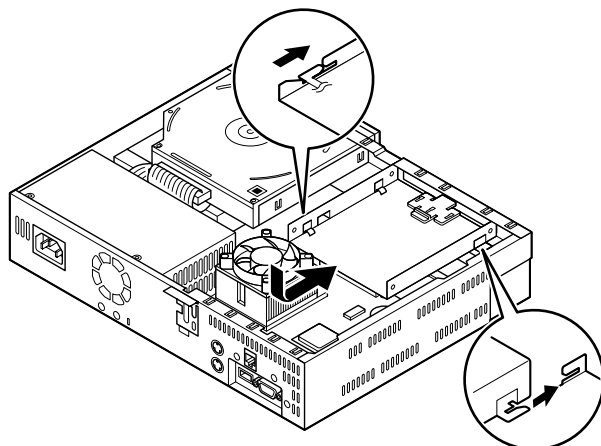
チェック!

フロッピーディスクドライブを取り付けるとき、FDケーブルがフロッピーディスクドライブの下を通るように注意してください。

- フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合



- FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合



5 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.120)

6 電源を入れ、Windowsを起動させる

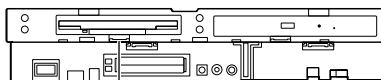
✓**チェック!** 必ずカバーを取り付けた後、電源を入れてください。

7 Windowsを終了させ、電源を切る

8 「カバーの取り外し」の手順でカバーを取り外す(P.117)

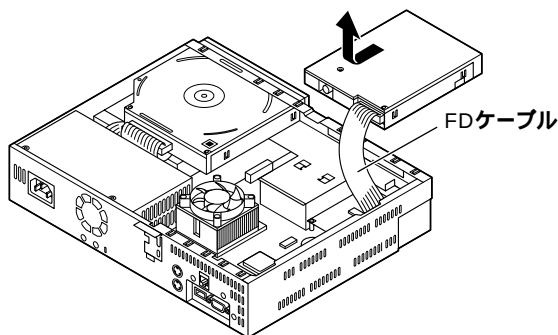
9 3.5インチベイストップを上に持ち上げロックを解除しながら、3.5インチベイストップを押し込み、フロッピーディスクドライブまたは、3.5インチベイブラケットを取り外す

✓**チェック!** フロッピーディスクドライブを取り外すときは、FDケーブルを傷めないように注意してください。

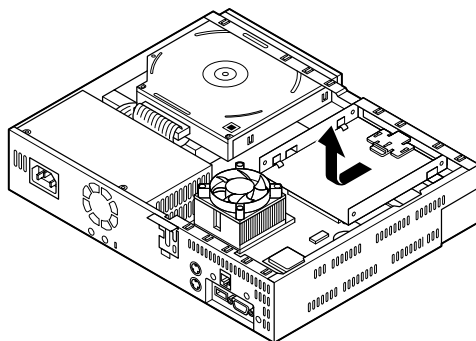


3.5インチベイストップ

■ フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合



■ FDレスモデル、FD/CDレスモデルの場合

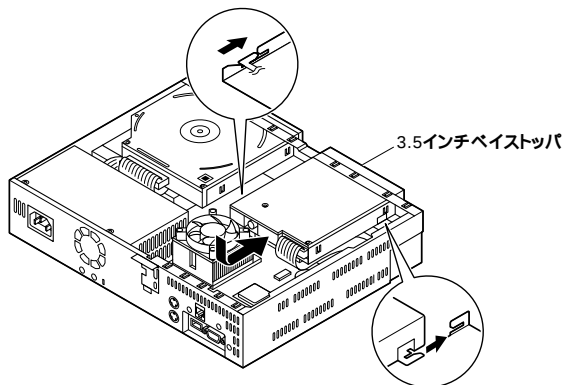


10 手順3で引き抜いたジャンパを元のようにストラップスイッチに差し込む

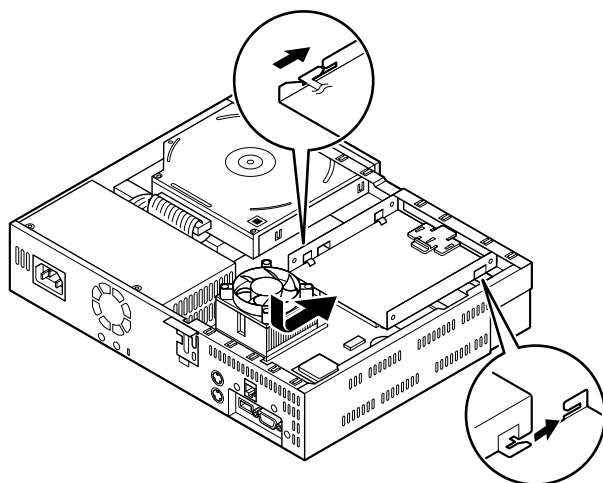
11 フロッピーディスクドライブ(3.5インチベイブラケット)の突起と本体側の溝2カ所をあわせて、3.5インチベイストップが「カチッ」と音がしてロックされるまで、フロッピーディスクドライブ(3.5インチベイブラケット)を前に押し込み、取り付ける

✓**チェック!!** フロッピーディスクドライブを取り付けるとき、FDケーブルがフロッピーディスクドライブの下を通るように注意してください。

■ フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合



■ FD レスモデル、FD CD レスモデルの場合



12 「カバーの取り付け」の手順でカバーを取り付ける(P.120)

以上で、パスワード解除のストラップスイッチの設定は終了です。

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	160
Mainの設定	162
Advancedの設定	165
Securityの設定	169
Powerの設定	173
Bootの設定	177

BIOSセッアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセッアップメニューが内蔵されています。

BIOSセッアップメニューの起動と初期画面

- 1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す

以下の画面が表示されます。

メニューを日本語に設定した場合は、「F2 :BIOSセッアップメニューを起動します、F12 :ネットワークブートします。」と表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
System Time : [hh:mm:ss] System Date : [mm/dd/yyyy] Language : [English(US)] Legacy DisketteA : [1.44/1.25 MB 3.5"] ▶ Primary Master : [x x x x x x] ▶ Primary Slave : [None] ▶ Secondary Master : [x x x x x x] ▶ Secondary Slave : [None] ▶ Keyboard Features Boot-time Diagnostic Screen [Disabled] System Memory 640KB Extended Memory x x KB BIOS Revision x x x x x x x x				Item Specific Help <Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field	
F1 Help ↑ ↓ Select Item - / + Change Values F9 Step Defaults Esc Exit → Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit					

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー



BIOSセッアップメニューの基本操作

- ・【↑】【↓】【←】【→】で設定項目の選択および設定項目内を選択します。
- ・「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は【Tab】で行います。
- ・【Enter】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

設定項目	説明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Setup Defaults	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。(【F9】を押す方法と同じ)
Discard Changes	変更前の値に戻します。
Save Changes	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

BIOSセットアップメニューの内容を、工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
デフォルト値(工場出荷時の設定値)を読み込みます。
- 5 【F10】を押す
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。
- 6 「Yes」を選択し、【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- System Time()
現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。
- System Date()
日付を「月/日/年」で入力します。
- Language()
BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」です。
- Legacy Diskette A
フロッピーディスクドライブのモードを選択します。工場出荷時の設定は、モデルによって異なり2通りあります。
フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルは、「1.44/1.25MB 3 1/2"」に設定されています。FDレスモデルまたはFD/CDレスモデルは、「Disabled」に設定されています。
「Disabled」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

設定項目	設定内容
Legacy Diskette A	Disabled
	360 Kb 5 1/4"
	1.2 MB 5 1/4"
	720 Kb 3 1/2"
	1.44/1.25 MB 3 1/2"
	2.88 MB 3 1/2"

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

- Primary Master

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

- Primary Slave

本項目には何も表示されません。

- Secondary Master

現在接続されているIDEデバイス(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ)が搭載されているモデルでは、工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが表示されます。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

- Secondary Slave

本項目には何も表示されません。

- Keyboard Features

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Num Lock	Auto / On/Off	起動時にNum lockを有効にするかを設定します。
Key Click	Disabled / Enabled	キークリック音を使用するかを設定します。
Keyboard auto-repeat rate	30/sec、26.7/sec、21.8/sec、18.5/sec、13.3/sec、10/sec、6/sec、2/sec	キーリピート間隔を設定します。
Keyboard auto-repeat delay	1/4 Sec、1/2 sec、3/4 Sec、1 sec	キーリピートが開始されるまでの待ち時間を設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
Legacy USB Support	Enabled / Disabled	USBレガシー機能を設定します。Windows MeおよびWindows 98は「Enabled」に設定してください。 Windows 2000の場合は「Enabled」、Windows NTでPS/2接続のキーボードの場合は「Disabled」、USB接続のキーボードの場合は「Enabled」に設定してください。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

- Boot-time Diagnostic Screen

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Enabled」に設定するとNECロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「Disabled」です。



チェック!

エラーメッセージが表示された場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A」をご覧ください。

- System Memory

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

- Extended Memory

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

- BIOS Revision

搭載されているBIOSのバージョンを表示します。

- Processor Serial Number

「Processor Serial Number」機能を設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

Advancedの設定

Advancedの設定

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- Plug & Play O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「Yes」を選択します。工場出荷時は「Yes」に設定されています。Windows NT 4.0をご利用の場合は「No」に設定してください。

- Reset Configuration Data

PCカードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「Yes」を選択します。工場出荷時は「No」に設定されています。ただし、「Yes」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「No」に戻ります。

- PCI Configuration

✓チェック! 本項目の設定は変更しないでください。

- Cache Memory

✓チェック! 本項目の設定は変更しないでください。

- I/O Device Configuration

入出力機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Floppy Disk Controller	Disabled / Enabled / Auto 注意	フロッピーディスクコントローラの使用を設定します。「Disabled」ではフロッピーディスクコントローラが使用できなくなります(I/Oロック)。
Base I/O Address	Primary / Secondary	フロッピーディスクコントローラのI/Oベースアドレスを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

注意 工場出荷時は、モデルによって異なり2通りあります。フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルの場合は「Enabled」、FDレスモデルおよびFDレCDレスモデルの場合は「Disabled」です。

 参照 I/Oロック → 「Securityの設定」(P.171)

- Large Disk Access Mode

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

- Local Bus IDE adapter

内蔵用のIDEアダプタを使用するかどうかを設定します。工場出荷時は「Both」に設定されています。

- QuickBoot Mode

「Enabled」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。

- DMI Event Logging

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
View DMI Event Log	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
Clear All DMI Event Logs	No / Yes	「Yes」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
Event Logging	Enabled / Disabled	「Enabled」ではDMIイベントログを記録します。
Mark DMI Events As Read	Yes/No	【Enter】を押し、「Yes」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

- LANDesk(R) Service()

本体BIOSに標準搭載しているLANDesk Service機能の設定を行います。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。



チェック!

LANDesk(R) Serviceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManagerが必要です。

参照

ネットワークブート機能→「PART1 本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」(P.102)

- Restore On AC/Power Loss

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。

設定項目	設定内容	説明
Restore On AC/Power Loss	Power Off	AC投入時に電源は入りません。
	Last state	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態で、AC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Power On	AC投入時に電源が入ります。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

- On PME()

PCIデバイス(LANボード等)によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Power On」に設定します。工場出荷時は「Stay Off」に設定されています。

メモ

PME(PCI Power Management Event)とは、管理者のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能で起動することです。

参照

リモートパワーオン機能→「PART1 本機の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」(P.102)「PART1 本体の構成各部」の「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」リモートパワーオン機能の設定(Windows Meの場合)(P.94)または「リモートパワーオン機能の設定(Windows 98の場合)(P.96)

- Summary Screen

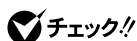
「Enabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

Securityの設定

Securityの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。



チェック!

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」および「PART2 周辺機器を利用する」 「ストラップスイッチの設定」 (P.153) を印刷しておくことをおすすめします。

- Supervisor Password Is

スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。工場出荷時は「Clear」です。

設定項目	設定内容	説明
Supervisor Password Is	(設定項目はありません)	「Set」が表示された場合、スーパーバイザパスワードが設定されています。 「Clear」が表示された場合、スーパーバイザパスワードが設定されていません。

- Set Supervisor Password

スーパーバイザパスワードを設定します。

設定項目	設定内容	説明
Set Supervisor Password	(パスワードを設定します)	項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとスーパーバイザパスワードの設定画面になります。

- User Password Is

スーパーバイザパスワードと同じ表示です。

- Set User Password()
スーパーバイザパスワードと同じ設定です。



チェック!!

ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

参照

NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

メモ

スーパーバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

- Password On Boot
本機の起動時にパスワード入力を行うかの設定を行います。リモートパワーオン機能を利用するときは、「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」に設定します。工場出荷時は「Disabled」です。
- Fixed disk boot sector
ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定を行います。「Write Protect」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「Normal」です。
- Diskette Access
下記の設定の後、「Supervisor」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。工場出荷時は「Supervisor」です。
 - ・ スーパーバイザ/ユーザパスワードを設定
 - ・ 「Password On Boot」を「Enabled」に設定

- Network Boot Setting

この項目にカーソルをあわせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Keyboard/ Mouse Lock	Disabled/ Enabled	「Enabled」を選択すると、リモート起動時(OSが起動されるまで)にキーボード/マウスをロックします。
BIOS LOCK	Enabled/ Disabled	「Disabled」を選択すると、「Password On Boot」で「Enabled」が設定されていてもリモート起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定した場合に表示されます。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。



チェック!!

ここでのリモート起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能により起動することを指します。

参照

リモートパワーオン機能→「PART1 本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」(P.102)

- Virus check reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」,「Daily」,「Weekly」,「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」です。

- System backup reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」,「Daily」,「Weekly」,「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

 I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューでフロッピーディスクドライブAの設定を「Disabled」にすることでロックを有効にすることができます。(P.162)

パスワードの解除

スーパーバイザ/ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Set Supervisor Password」または「Set User Password」にパスワードを入れて、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。なお、スーパーバイザ/ユーザパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については「PART2 周辺機器を利用する」の「ストラップスイッチの設定（P.153）をご覧ください。



チェック!!

無断でパスワードを解除することを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。（P.104）

Powerの設定

Powerの設定(Windows MeおよびWindows 98のACPIモードの場合)

Windows MeおよびWindows 98をACPIモードに変更した場合の省電力管理設定は無効になります。

「Power Savings」 「Auto Suspend Timeout」 「Hard Disk Timeout」 「System Switch」の設定は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「電源の管理」で行ってください。

参照 「電源の管理」の設定→Windowsのヘルプ



チェック!!

「System Switch」の設定は無効になり、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「電源の管理」の「詳細設定」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になります。

「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「電源オフ」 「シャットダウン」から「スタンバイ」または「休止状態」に変更した場合、電源を切る操作は次のようになります。

正しく電源を切る方法

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

「終了」 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は、「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows Meを起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

方法1

電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色に点灯し、サスペンド状態になります。

電源スイッチを4秒以上押し続ける

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプも緑色から点灯しなくなります。

方法2

電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源が切れると電源ランプ点灯しなくなります。

- Power Savings
本項目での設定は無効になります。
- Auto Suspend Timeout
本項目での設定は無効になります。
- Hard Disk Timeout
本項目での設定は無効になります。
- System Switch
本項目での設定は無効になります。
- Resume On Modem Ring
本項目での設定は無効になります。
- Resume On Time
本項目での設定は無効になります。
- Resume Time
本項目での設定は無効になります。

Powerの設定(Windows 98のAPMモードの場合)

Windows 98のAPMモード(工場出荷時)の場合の省電力管理設定を行います。

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- Power Savings()
パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することによって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
Power Savings	Disabled	パワーマネジメント機能を停止します。
	Customized	自動サスペンド(Auto Suspend Timeout)およびハードディスクのタイムアウト時間(Hard Disk Timeout)をユーザが選択できます。
	Maximum Power Savings	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 5 Minutes Hard Disk Timeout: 1 Minute
	Maximum Performance	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 Auto Suspend Timeout: 60 Minutes Hard Disk Timeout: 15 Minutes

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

 **チェック!** 「Customized」 「Maximum Power Savings」で10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

- Auto Suspend Timeout()
本機が自動的にサスペンド状態に移行するまでの時間を設定します。
工場出荷時は「Off」に設定されています。

 **チェック!** 本機を自動的にスタンバイ状態にする場合は、Windows 98の「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定してください。なお、本項目はWindows NT 4.0でのみ設定が有効になります。

 **参照** 「電源の管理」→「PART1 本体の構成各部」**電源**(Windows 98の場合)「電源の自動操作」(P.46)

- Hard Disk Timeout()
ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定します。工場出荷時は「Disabled」です。



チェック!!

10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。また「Hard Disk Timeout」の時間を設定しても、Windowsの電源管理の設定と「Hard Disk Timeout」で設定時間の短い方が優先されます。

● System Switch()

「System Switch」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。

工場出荷時の設定は、電源の管理モードが「APMモード」、システムスイッチが「Power Button」に設定されています。

- ・「Power Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を入れる/切ることができます。
- ・「Sleep Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「System Switch」の設定を「Power Button (工場出荷時)」から「Sleep Button」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

2 「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

Windows MeのACPIモードと同じ方法(P.173)で電源を切ってください。

● Resume On Modem Ring()

「On」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。なお、この項目は本機でWindows NTをご利用の場合は使用できません。工場出荷時は「Off」に設定されています。

● Resume On Time()

「On」に設定すると、レジューム時刻設定時間(Resume Time)で本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

● Resume Time()

レジュームする時刻を設定します。

Bootの設定

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- 起動順位(次の表が表示されます)

設定内容	説明
+Removable Devices	本機を起動するデバイスの順番を決めます。設定したデバイスの上から順番に起動されます。
ATAPI CD-ROM Drive	
+Hard Drive	
Network Boot	

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルをあわせめます。【+】を押すとリストの上側に移動し、【-】を押すとリストの下側に移動します。

複数のデバイスが存在する「Hard Drive」「Removable Devices」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。【Enter】で下位の項目を表示します。



チェック!!

使用環境にあわない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。

- Removable Devices()

取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブの検索する順番を設定します。本機は、フロッピーディスクドライブが1台なので設定を変更する必要はありません。

- Hard Drive()

ハードディスクドライブの検索する順番を設定します。本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの上から順に検索を続けます。

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧	180
割り込みレベル・DMAチャネル	187
本機のお手入れ	189

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧

MA80T/T、MA66H/T本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名			MA80T/T	MA66H/T
CPU	CPU種別		インテル® Pentium® IIIプロセッサ	インテル® Celeron™プロセッサ
	クロック周波数		800MHz	667MHz
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	256KB	128KB
	システムバス		100MHz(メモリバス:100MHz)	66MHz(メモリバス:100MHz)
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM		最大512MB DIMMスロット×2	
	ビデオRAM		メインRAMと共有して使用(メインRAMから10～13MB占有、表示領域として使用されるのは一部)	
表示機能	ウィンドウアクセラレータ		Intel® 810 Chipsetに内蔵(DVMアーキテクチャ採用)	
	グラフィック表示		640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ		内蔵* 3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応) *FDレスモデルおよびFDレレスモデルの場合は別売	
	ハードディスクドライブ		UltraATA66対応	
	出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセクションの内容により異なります		
		Windows Me インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約850MB Office 2000 Personalモデル:約1,150MB Office 2000 Professionalモデル:約1,180MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,490MB	
		Windows 98 インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約780MB Office 2000 Personalモデル:約1,150MB Office 2000 Professionalモデル:約1,190MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,540MB	

機種名		MA80T/T	MA66H/T
補助記憶装置	光ディスク関連		
	CD-ROMドライブ	内蔵* 最大24倍速(平均17倍速) * CDレスモデルおよびFDレズモデルの場合はなし	
	CD-R/RWDドライブ	内蔵* 読み込み:CD-ROMは最大24倍速、CD-RWは最大12倍速 書き込み:CD-Rは最大8倍速、CD-RWは4倍速 * CDレスモデルおよびFDレズモデルの場合はなし	
インタフェース	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
	USB	2(本体前面×1、本体背面×1)	
	通信関連		
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能	
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ	
	入力関連		
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
	テンキー付きPS/2 小型キーボード(縦置き収納型)	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタとPS/2接続マウスコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
	USB 109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
	USB小型キーボード	(バスパワーハブ×2)	
USB 98配列キーボード			
テンキー付きUSB小型キーボード			
PCカードスロット		TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard 準拠、Card Bus 対応	
ファイルベイ	専用3.5型ベイ[空き]	専用1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済)[0] (FDレズモデルおよびFDレズモデルの場合は専用1スロット空き)[1]	
	内蔵3.5型ベイ[空き]	専用1スロット(ハードディスクドライブで占有済)[0]	
	専用5型ベイ[空き]	専用1スロット(CD-ROMドライブまたは、CD-R/RWDドライブで占有済)[0] (CDレズモデルおよびFDレズモデルの場合は専用1スロット空き)[1]	
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
セキュリティ/マネジメント機能	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイル暗号化(「PGP」標準添付)*、I/Oロック、筐体ロック、ケーブルストップ、ウイルス検出・駆除(「Virus Scan」標準添付)、エンドユーザ管理(「CyberAccess」標準添付) * Windows 98インストールモデルで利用可能	
	マネジメント機能	ソフトウェアパワーOFF機能、リモートパワーオン機能*1、リモートコントロール*1、ネットワークブート機能、一括ファイル配信*2、クライアントモニタリング*1 *1 別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要 *2 別売のESMPRO/DeliveryManagerクライアントが必要	
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件	10～35℃、20～80%(但し結露しないこと)	
	本体標準構成時	約23W(最大約43W)	
消費電力	エネルギー消費効率	R区分 0.0016	R区分 0.0019

機種名		MA80T/T	MA66H/T
外形寸法	本体	312(H)×250(D)×60(W)mm(スタビライザ含まず) 312(H)×250(D)×152(W)mm(スタビライザ含む)	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm	
	テンキー付きPS/2 小型 キーボード (縦置き収納型)	44(H)×179(D)×382(W)mm	
	USB 109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	USB 98配列キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
	テンキー付きUSB小型 キーボード	44(H)×179(D)×382(W)mm	
質量	本体	約5.2Kg	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg	
	テンキー付きPS/2 小型 キーボード (縦置き収納型)	約1.2Kg	
	USB 109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
	USB 98配列キーボード	約1.1Kg	
	テンキー付きUSB小型 キーボード	約1.2Kg	

MA70T/T、MA63H/T 本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名			MA70T/T	MA63H/T
CPU	CPU種別		インテル® Pentium® IIIプロセッサ	インテル® Celeron™プロセッサ
	クロック周波数		700MHz	633MHz
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	256KB	128KB
	システムバス		100MHz(メモリバス:100MHz)	66MHz(メモリバス:100MHz)
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM		最大512MB DIMMスロット×2	
	ビデオRAM		メインRAMと共有して使用(メインRAMから10～13MB占有、表示領域として使用されるのは一部)	
表示機能	ウィンドウアクセラレータ		Intel® 810 Chipsetに内蔵(DVMアーキテクチャ採用)	
	グラフィック表示		640×480ドット 最大1,677万色	
			800×600ドット 最大1,677万色	
			1,024×768ドット 最大1,677万色	
			1,280×1,024ドット 最大1,677万色	
			1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ		3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)	
	ハードディスクドライブ		UltraATA66対応	
		出荷時ソフトウェア占有量	搭載するメモリの容量やセクションの内容により異なります	
		インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約850MB Office 2000 Personalモデル:約1,150MB Office 2000 Professionalモデル:約1,180MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,490MB	
		インストールモデル	アプリケーションレスモデル:約780MB Office 2000 Personalモデル:約1,150MB Office 2000 Professionalモデル:約1,190MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,540MB	
	CD-ROMドライブ		内蔵* 最大24倍速(平均17倍速) * CDレスモデルの場合はなし	
	ディスプレイ		アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
インタフェース	USB		2(本体前面×1、本体背面×1)	
	通信関連			
		LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能	
		FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ	
	入力関連			
		PS/2 109キーボード	本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
		テンキー付きPS/2小型キーボード(横置き収納型)		
		USB109キーボード	USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続 (パスワードハブ×2)	
		USB小型キーボード		
		USB98配列キーボード		
	PCカードスロット		TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard 準拠、Card Bus 対応	
ファイルベイ	専用3.5型ベイ[空き]		専用1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済 [0])	
	内蔵3.5型ベイ[空き]		専用1スロット(ハードディスクドライブで占有済 [0])	
	専用5型ベイ[空き]		専用1スロット(CD-ROMドライブで占有済 [0]) (CDレスモデルの場合は専用1スロット空き [1])	

機種名		MA70T/T	MA63H/T
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
セキュリティ /マネジメント機能	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイル暗号化(「PGP」標準添付)*、I/Oロック、筐体ロック、ケーブルストップ、ウイルス検出・駆除(「VirusScan」標準添付)、エンドユーザ管理(「CyberAccess」標準添付)* Windows 98インストールモデルで利用可能	
	マネジメント機能	ソフトウェアパワーOFF機能、リモートパワーオン機能*1、リモートコントロール*1、ネットワークブート機能、一括ファイル配信*2、クライアントモニタリング*1 *1 別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXホスト専用版付)が必要 *2 別売のESMPRO/DeliveryManagerクライアントが必要	
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件	10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時	約23W(最大約43W)	
	エネルギー消費効率	R区分 0.0016	R区分 0.0017
外形寸法	本体	306(H)×250(D)×60(W)mm(スタビライザ含まず) 312(H)×250(D)×152(W)mm(スタビライザ含む)	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm	
	テンキー付きPS/2小型 キーボード(横置き収納型)	39(H)×189(D)×382(W)mm	
	USB109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	USB98配列キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
質量	本体	約5.2Kg	
	キーボード		
	PS/2 109キーボード	約0.9Kg	
	テンキー付きPS/2小型 キーボード(横置き収納型)	約0.9Kg	
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
	USB98配列キーボード	約1.1Kg	

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長 注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注 リピータの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
	適用回線	加入電話回線
	同期方式	半二重調歩同期方式
	通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps 注
	通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
	変調方式	TCM:14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps
	送信レベル	-9~-15dBm(出荷時-15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
データモデム機能	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)
	適用回線	加入電話回線
	同期方式	全二重調歩同期方式
	通信速度	送受信:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps 注 受信のみ:56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/ 49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/ 42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/ 34666/34000/33333/32000/30666/29333/28000bps 注
	通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
	変調方式	PCM:56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/ 49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/ 42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/ 34666/34000/33333/32000/30666/29333/28000bps TCM:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:4800/2400/1200bps DPSK:1200bps FSK: 300bps
	エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM), MNP class4
	データ圧縮	ITU-T V.42bis, MNP class5
	送信レベル	-9~-15dBm(出荷時-15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
NCU機能	制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	適用回線	加入電話回線
	ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル
	NCU形式	AA (自動発信 / 自動着信型)
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

ATコマンド

ATコマンドについては、『[ATコマンド](#)』[ここをクリック](#)）をご覧ください。

割り込みレベル・DMA チャンネル

割り込みレベル

工場出荷時の割り込みレベルの割り当ては、次の通りです。

割り込み レベル	デバイス	
	Windows Meの場合	Windows 98の場合
IRQ 0 0	カウンタおよびタイマ	
IRQ 0 1	PS / 2 接続キーボード	
IRQ 0 2	割り込みコントローラ	
IRQ 0 3	(空 き)	
IRQ 0 4	(空 き)	
IRQ 0 5	PCカード/LANまたはFAX/USB/SMBus Controller	
IRQ 0 6	フロッピーディスクドライブ	
IRQ 0 7	(空 き)	
IRQ 0 8	リアルタイムクロック	
IRQ 0 9	ACPIバスで使用されて いるSCI IRQ	(空 き)
IRQ 1 0	グラフィック	
IRQ 1 1	PCカード	
IRQ 1 2	PS / 2 接続マウス	
IRQ 1 3	数値演算コプロセッサ	
IRQ 1 4	プライマリIDE	
IRQ 1 5	セカンダリIDE	

FDレスモデルおよびFD/CDレスモデルは「(空 き)」です。

DMAチャンネル

工場出荷時のDMAチャンネルの割り当ては、次の通りです。

DMA チャンネル	データ幅	デバイス
0	8または16ビット	(空き)
1	8または16ビット	(空き)
2	8または16ビット	フロッピーディスク
3	8または16ビット	(空き)
4	—————	DMAコントローラ
5	16ビット	(空き)
6	16ビット	(空き)
7	16ビット	(空き)

FDレスモデルおよびFD/CDレスモデルは「(空き)」です。

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

⚠ 注 意



感電注意

- お手入れの前には、本機の電源を切って電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
感電の原因になります。



発火注意

- 電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。
電源ケーブルのプラグにほこりがたまったら長い間清掃しないと、プラグのピンの中で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

本体

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

本体の内部

長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、またはNECにご相談ください。NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、CD-R/RWDライブクリーニングディスク（別売）を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。

ディスプレイ

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

キーボード

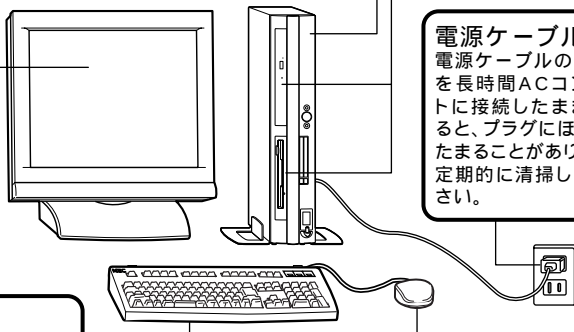
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。キーのすきまからゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、またはNECにご相談ください。NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

マウス

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。→「マウスのクリーニング」（次ページ）

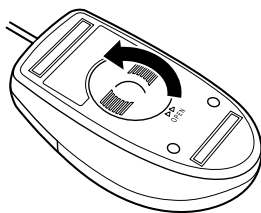


- ✓ **チェック!!**
- ・ 水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装を傷めたり、故障の原因となったりします。

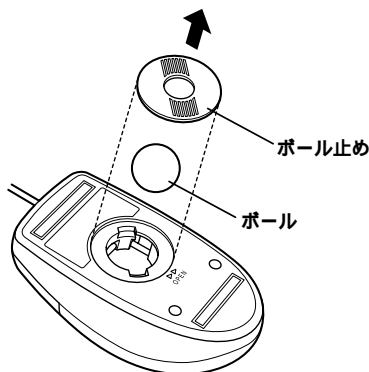
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4～6の手順は省略してもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



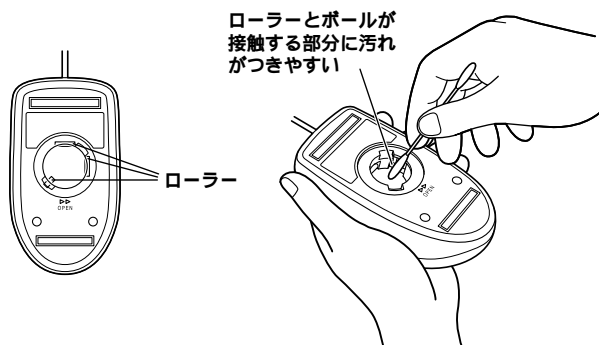
4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす

5 水で中性洗剤を洗い落とす

6 布で水分を拭き取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

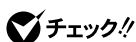
7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります
(このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けないでください)



8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定する



チェック!!

- ・ クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・ クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・ 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装を傷めたり、故障の原因となったりします。
- ・ ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate

スーパースリムタワー型
(Windows Meインストールモデル)
(Windows 98インストールモデル)

初版 2001年1月

NEC

P